# 永遠の真理

**ETERNAL TRUTH** 



2017年 5月

「この日を神と共に」「管理者」「大贖罪の日における大祭司の立場と働き」「海苔パスタ」



いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

## 目次

今月の聖書勉強

「管理者」

聖書の教え

「この日を神と共に」

This Day with God

現代の真理

「大贖罪の日における大祭司の立場と働き」

清めの特別な働き

力を得るための食事

「海苔パスタ」

お話コーナー

「初期の働き(II)」

イエスの物語

#### 教会

#### 【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

FAX: 0494-40-1045

#### 【高知集会所】

〒 780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話:088-831-9535

#### 【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話:0980-55-8136

#### アクセス www.4angels.jp

support@4angels.jp

発行日 2017年4月30日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Dreamstime on front cover; Sermon view on pages 8, 40, Joe Maniscalco on back

#### キリストは教会のために弁護しておられる

ヨハネは、愛の精神を実行するときにやってくる高尚な特権を信者に理解させようとした。このあがないの力は、心を満たして、他のすべての動機を支配し、その人を世の堕落した感化の及ばないところに高める。そしてこの愛が十分に力を発揮できるようになり、また、人生における原動力になったとき、神と、彼らに対する神の取り扱いとに対する信頼と確信は完全になる。そうして彼らは、現在と永遠の幸福のために必要なものをすべて神から受けることができることを知って、信仰の確信に満ちて神のもとに来ることができた。「わたしたちもこの世にあって彼のように生きているので、さばきの日に確信を持って立つことができる。そのことによって、愛がわたしたちに全うされているのである。愛には恐れがない。完全な愛は恐れをとり除く」と、ヨハネは書いた。「わたしたちが何事でも神の御旨に従って願い求めるなら、神はそれを聞きいれて下さるということである。そして・・・・なんでも聞きいれて下さるとわかれば、神に願い求めたことはすでにかなえられたことを、知るのである。」

「もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である。ただ、わたしたちの罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである。」「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。」神からあわれみをいただく条件は単純で理にかなっている。主はゆるしをお与えになるために、何か苛酷なことをするようにとはお求めにならない。われわれは天の神にわれわれの魂をゆだね、あるいは罪を償うために長い退屈な巡礼をしたり、苦行をする必要はない。罪を「言い表わしてこれを離れる者は、あわれみをうける」(箴言 28:13)。

天の法廷で、キリストは教会のために弁護しておられる。すなわち、キリストが血のあがないの値を支払われた人々のために弁護しておられるのである。どんなに世紀や時代を重ねても、キリストのあがないの犠牲は効力を減じない。生も死も、高いものも深いものも、キリスト・イエスにおける神の愛からわれわれを引き離すことはできない。それはわれわれがしっかりとキリストをつかんでいるからではなく、キリストがわれわれをしっかりつかんでいるからである。もし救いがわれわれ自身の努力にかかっているとすれば、われわれは救われることができない。しかし救いは、すべての約束を支持しておられる方にかかっているのである。キリストをとらえるわれわれの力は弱いように見えるかもしれないが、キリストの愛は兄の愛のようで、主と結ばれているかぎり、だれも主のみ手からわれわれを引き離すことはできない。(患難から栄光へ下巻 255, 256)

#### 聖書の教えXVII

## 21章 管理者

詩篇 24:1 により、万物は神の所有です(歴代志上 29:11, 12)。大小にかかわらず、わたしたちの所有物は、委託されたものにすぎません。わたしたちの命、力、技能、時間、タラント、機会、そして資金について、神に会計報告を提出しなければなりません(コリント第一 4:1, 2; マタイ 25:14-30)。

「人は……主が何を命じておられようと、また自分の同胞が何を必要としていようと、自分たちの資金を自分たちの好きなようにする権利があると考えているかのようである。彼らは自分たちのものだと主張する一切は、単に自分たちに委託されているにすぎないことを忘れている。」(管理者に関する勧告 112)

「金銭はわたしたちが、自分に栄えを帰するために与えられたものではない。 わたしたちは、忠実な管理者として、神に栄光を帰するために、金銭を用いなければならない。……わたしたちの所有するものはみな神のものであって、その用途について、責任を負わなければならない。一銭の金を使うにも、神を第一に愛し、自分のように隣人を愛しているかどうかがあらわれるものである。

金銭は、大いなる善をすることができるから、大きな価値がある。それが神の子供たちの手にあれば、貧しい人の食事、かわいた人の水、裸の人の着物となり、圧迫されている人びとの防御となり、病人を助ける手段にもなる。金銭は、困っている人びとを助け、他を祝福し、キリストの働きを前進させるために用いてこそ、価値があるのであって、もしそうでないならば、金銭は砂と同様でなんの価値もないのである。」(キリストの実物教訓 327)

「わたしたちは自分自身を生ける犠牲として明け渡し、わたしたちのすべてをイエスに捧げよう。それはこのお方のものである。わたしたちはこのお方に買われた所有物である。このお方の恵みを受けた人々、カルバリーの十字架を熟考する人々は、捧げるべき割合を尋ねたりはしない。かえって、最も豊かな捧げ物もあまりにも取るに足りないものであり、無限の神のひとり子という大いなる賜物にまったく見合わないものだと感じるのである。自己否定を通して、最も貧しい者も、神にお返しする何かを得る道を見出すようになる。」(管理者に関する勧告 200)

#### 忠実で賢明な執事

賢明で忠実な執事は、神が自分に与えて下さったものに心を配ります (マタイ24:45-47; テサロニケ第二3:10-13; 箴言11:24, 25)。

わたしたちはイエスがまもなく来られることを信じていますが、また次の指示も受けています。すなわち、「もしある人が、その親族を、ことに自分の家族をかえりみない場合には、その信仰を捨てたことになるのであって、不信者以上にわるい」(テモテ第一5:8)。ですから、個人として、わたしたちは目下、救い主が現れる時まで定かでない将来のために備えるべきです(ルカ19:13)。

#### 什一

神が万物を所有しておられることを認めて、わたしたちはすべての増加について十分の一(什一)を神にお返しすることが求められています(レビ記 27:30-33; マタイ 23:23; コリント第一 9:14)。聖書は什一を出さずにおくことは、第 8条の違反であることを教えています(出エジプト記 20:15)。(マラキ 3:8, 9)。

メルキゼデクに等しい祭司職の下で、神は今もわたしたちの什一をわがものと主張しておられます (ヘブル 7:1-8 (黙示録 1:18 参照))。主の十分の一は倉、すなわち教会員であったりもしくは出席している教会を通して、定期的に神の下へ返されなければならない (申命記 12:5, 6; ネヘミヤ 13:11, 12)。わたしたちの繁栄は、この原則に対するわたしたちの忠実さにかかっています (箴言 3:9, 10; マラキ 3:10, 11)。

「各自定期的に自分の収入、すなわちすべて神からの祝福であるものを吟味し、什一を神聖に主のものとするために別の資金としてとりわけなさい。この資金はいかなる場合も、他の用途に用いてはならない。それはただ福音の牧会を支えるためだけに捧げられるべきである。什一を別にした後、捧げ物や献金を、「神が」あなたを「恵まれたように」割り当てなさい。」(管理者に関する勧告81)

「わが民のために非常に明白で疑いの余地のないメッセージがわたしに与えられてきた。わたしは、たとえそれ自体は良いことであっても、主が什一を充当すべきだと仰せになったことではない様々な目的に什一を用いることによって彼らが間違いを犯していると彼らに告げるよう命じられている。 什一をこのように使用している人々は主の取り決めから離れていっている。 神はこれらの事のために、裁かれるであろう。

ある人は、什一を学校の目的のために充当することができると考える。また、他の人々は文書伝道者たちを什一で援助すべきだと考える。しかし、什一が用いられるべき目的一牧師たちを支えること一から引き離されるとき、大変な過ちを犯すのである。今日立派な資格のある働き人が一人しかいない伝道地に、百人いるべきである。」(教会への証 9 巻 248, 249)

「働きの他の分野のために供給がなされるべきである。それらは維持されるべきであるが、什一からではない。神は変わっておられない。什一はなおも、牧会を支えるために用いられるべきである。新しい伝道地を開くためには今わたしたちが持っている以上に牧師職の効果的な働きが要求される。そして金庫には資金がなくてはならない。」(同上 250)

「わたしたちの総会は学校に教育を受けよく訓練された働き人たちを期待しており、また彼らは学校に誠心からの知的な支援を与えるべきである。わたしたちの学校で奉仕し、神のみ言葉を教え、聖書を説明し、神の事柄において学生を教育している人々は什一の資金によって援助されるべきとの光がはっきりと与えられてきた。」(同上6巻215)

「多くの人々が何年も什一を支払ってこなかったことを告白した。そして神がご自分から盗んでいる人々を祝福することがおできにならないこと、また教会はこの個々人の教会員の罪の結果に苦しまなければならないことをわたしたちは知っている。」(管理者に関する勧告 95)

「もしすべての人が聖書を書かれている通りに信じ、主の言葉を理解するために自分たちの心を開くならば、『什一の問題がわかりません。わたしの状況において什一を払うべきだということがわかりません』とは言わなくなるであろう。『人が神から盗むであろうか』。そうする結果ははっきりと述べられており、わたしはその結果の危険を冒したくはない。心を尽くし、神に従うという断固とした立場をとるすべての人、自分の負債を清算するために主が取り置かれた資金一主ご自身の金銭一を取らないすべての人、主がご自分のものだと要求される分を主にお返しするすべての人は、神に従うすべての人に約束された神の祝福を受けるのである。」(同上92,93)

「主は、すべての産物の十分の一を主のものとして要求された。そして主は、 十分の一をささげないことを、盗みとみなされるのであった。」(患難から栄光へ 下巻 16, 17)

#### 初穂

神はエジプトにおける最後の災いにおいて、ご自分の選民の長子を救われたため、わたしたちのすべての増加について最初の部分をご自分のものとして権利を主張されます(出エジプト記 23:19; レビ記 23:10; 箴言 3:9)。

#### 自由献金

神はわたしたちの収入の十分の一をご自分に対するわたしたちの義務として要求しておられますが、その一方残りの十分の九は、神に対するわたしたちの愛が示唆する通りに用いるようわたしたちに与えておられます。神に対するわたしたちの愛の大きさは、自由献金において、地上におけるこのお方のみ事業のためにわたしたちが捧げる自由と喜びの中に表されるものであり、この自由献金はわたしたちの繁栄に比例しているべきです(出エジプト記 25:2; 申命記 16:16, 17; 歴代志上 16:29; 詩篇 96:8)。

「実際的な慈善は、現在自分たちの闇を嘆いている幾千もの真理の名目的公言者たちに霊的な命を与える。慈善は彼らを利己的で貪欲な富の礼拝者から、罪人の救いにおいてキリストと共に働く熱心で忠実な働き人へと変えるのである。」(教会への証3巻387)

「宗教と慈善の目的のためにヘブル人に要求された献金額は、彼らの収入の四分の一に及んだ。人々の財産に、このような重税が課せられたのでは、人々は貧困に陥ってしまうと思われるであろう。ところが、この規則に忠実に従うことが、彼らの繁栄の条件の一つであった。」(人類のあけぼの下巻162)

「ある人々は自分に負債があるからと言い訳して、神のみ事業を援助しない。彼らが自分自身の心を厳密に吟味するならば、神への自由献金を携えてこない本当の理由は、利己心であることを発見することであろう。ある人々はいつも借金を抱えている。彼らの貪欲のゆえに、彼らの事業を祝福するための神の繁栄の御手が彼らと共にないのである。彼らは真理よりもこの世をもっと愛している。彼らは神の御国へふさわしくされておらず、準備ができていない。」(管理者に関する勧告 93)

「イスラエルの時代に、十分の一と任意のささげ物とは神の礼拝の儀式を維持するために必要であった。この時代に、神の民は、それ以下のものをささげるべきであろうか。キリストがお与えになった原則によれば、われわれのささげ物は、

われわれに与えられた光と特権に比例してなされるべきである。」(人類のあけぼの下巻 164)

「ある人々は言う、やれやれ、み事業のために捧げるようにとの要求が絶えず来るが、わたしは捧げることに疲れてしまった。そうであろうか。では、お尋ねする。あなたは神の恩恵の御手より受けることに疲れたであろうか。このお方があなたを祝福するのをおやめになるまでは、このお方がご自分のものだと要求される分をお返しするという義務の下から離れることはない。このお方はあなたが自分の力で他の人々を祝福することができるようにあなたを祝福してくださるのである。あなたが受けるのに疲れたとき、捧げなさいという要求が多すぎて疲れると言うことができる。神はわたしたちが受けるすべてのものの一部をご自分に取っておかれる。これがご自分に戻されるとき、残りの部分も祝福されるが、それが差し出されないとき、遅かれ早かれ全体がのろわれるのである。神のご要求が第一であり、すべてその他のものは二番目である。」(教会への証5巻150)

#### タラント

「わたしたちが持っているすべてのものは主のものである。わたしたちの金銭、わたしたちの時間、タラント、わたしたち自身は、みなこのお方の所有物である。このお方は、わたしたちをテストし、試すために、またわたしたちの心のうちにあるものを発達させるために、それらをわたしたちに貸し与えてこられたのである。もし神が恵み深くわたしたちに委託してこられた恩寵を、わたしたちが利己的に自分自身のものだと主張するならば、大損失に会うことになる。なぜなら、わたしたちが神から盗んでいるからであり、神から盗むことによって、天の祝福とキリストが忠実で従順な者に与えて下さる次の祝祷を自分自身から奪っている、『良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ』(マタイ 25:23)。」(サインズ・オブ・タイムズ 1875 年 4 月 1 日)

## この日を神と共に

This Day with God



5月

#### エレン・ホワイトの投資

「自分の持ち物を売って、施しなさい。自分のために古びることのない財布をつくり、盗人も近寄らず、虫も食い破らない天に、尽きることのない宝をたくわえなさい。」(ルカ 12:33)

今朝、わたしたちはみな元気である。昨夜A夫妻が呼びかけで、わたしたちはよい訪問をした。会話が銀行株におよび、どれほどの人が自分たちの財産を投資することで金持ちになっていっているかという話になった。ある人はまた損をする羽目になっていた。このように損得の話がA夫妻とB姉妹、C姉妹で話し合われた。

「さて、ホワイト夫人が何かおっしゃって下さらなくては。お考えをおっしゃらなくてはなりませんよ。まだ一言もないのですから」とA夫人が言った。

「そうですね、わたしは長い間銀行株に投資してきましたが、一度も損をしたことがありません。その投資は元金もたくさんの利子ももたらしてきました」とわたしはゆっくりと言った。

全員がおどろいて視線を向けた。わたしは微笑んだ。A夫人は「あなたはどこに投資しているのですか」とたずねた。

「天の株にです。わたしは自分の前にある宝を天に送りこんできました。この 天の株の持ち主はわたしに『あなたは自分のために地上に宝を蓄えてはならない』 と警告し、わたしが大きな損失をこうむる危険性をわたしに話しました。そして『自 分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すことも ない天に宝を蓄えなさい』と、このお方はわたしに勧告されました。この投資は 確かであって計りしれない利益をもたらします」。

A夫人は「あなたが投資している間、それは毎日利益をもたらします。あなたはその株が上がるか下がるか待つ必要はありません。収益は確実であり、損をする危険はありません」と述べた。

それから、わたしたちはさようならを言って、彼らがこのことについて考えるままにして去った。わたしたちには日々天に積んでいる宝があるという根拠のゆえに主のみ名を誉めたたえる。これは尊い投資である。わたしは日々イエスがわたしのものであり、わたしがこのお方のものであるという保証がほしい。(手紙 20, 1876 年 5 月 1 日)

「この世で富んでいる者たちに、命じなさい。……良い行いをし、良いわざに富み、惜しみなく施し、人に分け与えることを喜び、こうして、真のいのちを得るために、未来に備えてよい土台を自分のために築き上げるように、命じなさい」(テモテ第一 6:17-19)。ここに賢い、完全に安全な投資がある。良い働きがわたしたちの訓練とあなた方の訓練のために、ここで具体的にあげられ勧められている。ここに貴重な利益がある。ここには失敗する危険はない。(教会への証 1 巻 693)

## キリストによって達成

「今わたしは、主とその恵みの言とに、あなたがたをゆだねる。御言には、あなたがたの徳をたて、聖別されたすべての人々と共に、御国をつがせる力がある。」(使徒行伝 20:32)

主の道についての知識は増しており、増し続けるであろう。異端と迷信が違反と罪を犯す荒布の衣をまとって世を覆っている。あらゆる種類の文学作品や安っぽい作り話が秋の落ち葉のように舞っており、幾千もの思いが宗教的でない安っぽい駄作に非常に親しんでいるので、思いの中に堅実な読み物のための場所がない。神のみ言葉と、人を堕落から引き上げるすべてのものは無関心に見捨てられている。

しかし、神のみ言葉は真理を包含しており、現代のための神の真理を支持する人はみな、今のためにまた永遠のために自分たちの働きをしている。神のみ言葉を思いと心に取り入れる人々は、はっきりと神と天の宇宙の側に自分の立場を置いている。彼らは聖なるもの、純潔なもの、すなわち各時代のテストに耐えるものを守るために、心と心を合わせ、手に手を取って立っている。言葉や筆や声によって、また真理とつながっている人々を圧迫することによって、誤りを支持する人々は、最初の背信者と彼の代理人である悪人たちと共にもう一方の側に加わっている。御言はこれらのものについて、彼らは「人を惑わし人に惑わされて、悪から悪へと落ちていく」と宣言する。そしてこの二つの側のどちらかで、人々は最後まで労するのである。

わたしたちの能力はみな神に属している。それらは創造とあがないによってこのお方のものである。神はご自分のはかりにしたがってすべての者に能力を与えておられ、各々がそれを信仰の側に発揮することを期待される。「このようにいつまでも存続するものは、信仰と希望と愛である」。信仰は失望させる困難を通して見る。しかも、目には見えない全能者をつかむ。だから、くじかれることはない。信仰と希望と愛は姉妹であって、その働きは世界の道徳的暗闇のただ中で輝くために完全に混じりあう。子供や若者は教えを受けるべきであり、無知なものは何が真理であるかを知るために、忍耐強い努力によって教えられねばならない。規則に規則が彼らに与えられるべきである。(原稿 46, 1897 年 5 月 2 日、あなたのみ言葉の入り口は光を与える)

## 天の招き

「おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。」(ルカ 14:11)

だれ一人として自分自身について語ったり、自分の能力をほめそやしたり、自分の知識をひけらかしたり、うぬぼれを育てたりして、自分自身を高めることがないようにしよう。だれ一人として自分の標準によって働かない他の人々の働きを中傷しようとしてはならない。天の教師はわたしたちを招いておられる。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」(マタイ11:28-30)。キリストは決して自己満足されたり、頑迷であったり、うぬぼれたりなさらなかった。このお方は、「子は父のなさることを見てする以外に、自分からは何事もすることができない。父のなさることであればすべて、子もそのとおりにするのである」と宣言なさった(ヨハネ5:19)。……

だれ一人として自分を自分自身のものだという権利はない。また、自分自身のものだと言える良いものを持ってはいない。すべての人、すべてのものは、主の所有である。人が天の賜物の中から受けたものはなおも主のものである。わたしたちが持っている価値あるものは何でも、わたしたちは自分たちの同胞の益のために用いるべきである。それは彼らが価値ある働き人となるためである。すべてのエネルギーやすべての才能は、神のご奉仕に用いていただくことによって、神の栄光に帰すべきタラントである。わたしたちの神からいただいた能力は、利己的な目的のために用いられるべきではない。わたしたちは自分の知っていることをみな他の人々にも分つことによって、いつも喜んで与えるべきである。そして、もし彼らが、彼らの働きにおいてわたしたちが持っているエネルギーや知性よりすぐれたものを発達させるなら、喜ぶべきである。

神の賜物は自己賞揚のために用いられてはならない。そうではなく、両替人に差し出されるべきである。そのようにしてこのお方はご自身のものを利息と共に受け取られるのである。だれ一人として自分に委ねられた能力を適切な用い方をせずに転用することによって、偉大さや幸福や自己満足を手に入れようと試みてはならない。なぜなら、そうすることによって彼は与え主を辱めるのであり、彼が創造された目的を成就するのに失敗するからである。わたしたちの力はすべて神から来たのであり、このお方の栄光のために用いられるべきである。……

だれ一人としてほんのわずかでさえ自慢するようなものを持ち合わせてはいない。だれ一人として、まさに自分の最善をなしたときでさえ、自分に栄光を帰したり、自己を高めたりする理由はない。(手紙 10, 1884 年 5 月 3 日、デンマークの先駆者である牧師へ)

## 労働の祝福

「そして、あなたがたに命じておいたように、つとめて落ち着いた生活をし、自分の仕事に身をいれ、手ずから働きなさい。そうすれば、外部の人々に対して品位を保ち、まただれの世話にもならずに、生活できるであろう。」(テサロニケ第一4:11, 12)

多くの人々は労働を、魂の敵に起源を発したのろいだとみなしている。これは 誤った考えである。神は労働を祝福として、人の思いを従事させ、その肉体を強 くし、そしてその機能を発達させるために人間に与えられたのである。アダムはエ デンの園で働いた。そして彼は自分の聖なる存在の最高の喜びを、精神的また 肉体的な活動のうちに見出した。彼が自分の不服従の結果として美しい家庭から 追放され、自分の日ごとの糧を得るために扱いにくい土壌で奮闘しなければなら なくなったとき、その労働こそ、彼の疲れた魂にとって休息であり、誘惑に対す る防壁であった。

思慮分別のある労働は、われわれ人類の幸福のためにも繁栄のためにも不可欠である。それは弱い者を強くし、臆病な者を勇敢にし、貧しい者を富ませ、そして不幸な者を幸福にする。わたしたちの様々な信任はわたしたちの様々な能力に比例しており、そして神はご自分がその僕たちにお与えになったタラントに応じた見返りを期待しておられる。報酬を決定するのは、所有しているタラントの大きさではなく、それらの用い方である。生活の義務を行なう際の忠実さに応じて、報酬が大きいか小さいかが決まるのである。

怠惰は、人間に降りかかる最大ののろいの一つである。なぜなら、悪徳と犯罪がそれに続くからである。サタンは待ち伏せており、防備していない者、すなわち自分たちの暇な時間によって、サタンに何らかの魅惑的な装いの下で、彼らに取り入るすきを与える者たちを驚かせ、滅ぼす用意ができている。サタンは人の暇な時に訪れるときほど成功する。

富に続く最大ののろいは、仕事は品位を落とすものであるという流行的な考えである。「見よ、あなたの妹ソドムの罪はこれである。すなわち彼女と、その娘たちは高ぶり、食物に飽き、安泰に暮していたが、彼らは、乏しい者と貧しい者を助けなかった」(エゼキエル 16:49)。ここでわたしたちの前に、聖なる書物のみ言葉のうちに、怠惰の恐ろしい結果が提示されている。平野の諸都市の堕落を引き起こしたのはこれであった。怠惰は思いを弱め、魂の品位を落とし、そして理解力をゆがめ、祝福として与えられたものをのろいにしてしまう。(サインズ・オブ・タイムズ 1882 年 5 月 4 日)

## 罪を取り除く

「その罪を隠す者は栄えることがない、言い表わしてこれを離れる者は、あわれみをうける。」(箴言 28:13)

バビロンの衣や取るに足らない金銀の宝のために、アカンは自分自身を悪に売り渡し、自分の魂に神ののろいをもたらし、カナンにおける豊かな財産の所有権を喪失し、将来のあらゆる前途、すなわち新しくされた地での朽ちることのない嗣業を失うことに同意したのであった。……

彼の厚顔と執拗さがあまりにも大きかったため、ヨシュアは彼が最後まで自分の無実を主張し、会衆の同情を得て、彼らが神を辱めるように導くのではないかと恐れた。こうすることによって自分の犯罪の結果を避けることができるのではないかと彼が思わなかったならば、彼は告白しなかったのである。自分の罪を認め、罪を詳細に述べた彼の一見率直に見える態度は、この思いがあったからである。このようにして、罪ある人々は自分たちが責められ、神の裁判の前で希望がないときに、すべての判決が生か死かに決定されるときに、彼らは告白をした。そのときになされる告白は罪人を救うには遅すぎるのである。

アカンの罪の告白と似たような告白をする自称クリスチャンたちが多くいる。彼らは、一般的に自分たちの無価値さを認める。しかし彼らは自分たちの良心をとがめている罪、神のご不興をそのみ民に招いている罪を告白することは拒むのである。こうして多くの人々は、利己心という罪を隠し、さらには神と自分たちの隣人に対する不正直、家庭における罪、そして公に告白するべきほかの多くの罪を隠すのである。

本物の悔い改めは、罪の傷つける性質を感じて湧き上がるものである。これらの一般的な告白は神のみ前に魂が真にへりくだった結果ではない。こうした告白は以前と変わらず、罪人が自己満足の精神で行くままにまかせ、ついには彼の良心がかたくなになり、かつては彼を奮い立たせた警告がほとんど危機感を生じさせなくなり、しばらくすると自分の罪深い行動が正しく見えてくる。まったく遅すぎるときになって、それらが犠牲によっても捧げ物によっても永久に清められることのない日に、彼の罪は彼の正体を見破ることになる。事実が明るみに出てからそれらを認めることと、自分自身と神にしか知られていない罪を告白することのあいだには、非常に大きな違いがある。(サインズ・ オプ・ タイムズ 1881 年 5 月 5 日)

## 救いに重要不可欠なもの

「あなたがたは、以前はやみであったが、今は主にあって光となっている。光の子らしく歩きなさい。」(エペソ 5:8)

闇の中から光が照り出でよとお命じになったお方は、正しくご自分を眺めているすべての者、このお方を何よりも愛し、このお方を信じる揺るがない信仰と信頼を示している者の思いに光を注ぎ込んでくださる。このお方の光は、思いの部屋へ、また魂の宮へと輝く。心はイエス・キリストのみ顔に輝く栄光の知識の光で満たされる。そしてこの光は霊的な識別力である。……

喜んで真理の証拠に従い、わたしたちの行く道に輝く光のうちを歩むとき、わたしたちはさらに大きな光を受ける。神の栄光の表れの力を通して、わたしたちは絶えず霊的な理解力において進歩するのである。

真理についてのキリストの知識は率直で、明確で、くもりがなかった。人がイエス・キリストとより緊密に親しくなればなるほど、彼は自分の同胞を敬意をもって、礼儀正しく、正当に扱おうとますます注意深くなる。彼はキリストから学び、そして言葉と行動においてこのお方の模範に従う。信仰によって、彼はキリストと結合する。「わたしたちは神の同労者である」(コリント第一3:9)。……

キリストの祈りはご自分に従う者たちの間における一致のためであった。この一致は、神が罪人を救うためにひとり子を送られたことを、世に説得するための証拠である。わたしたちは互いに対する真実で、純潔で、聖なる愛を表すことによって、キリストに仕えるのである。主の機関につながるようにと選ばれた人々は献身的で、自己を否定し、自己を犠牲にする人、自分自身を喜ばせるためではなく、主人を喜ばせるために生きる人でなくてはならない。これらは主の機関を尊ぶ人々である。

神とキリストの知識は救いのためにどうしてもなくてはならない重要なものである。わたしたちはキリストの柔和とへりくだりをもっと学ばないために、毎日多くのものを失っている。キリストから学ぶ者は、最上級の教育を得るのである。キリストの救う恵みへの信仰と依存を通して、彼らは知識と知恵が増し加わる。彼らは救い主を愛し、讃美する。……

救われる人々は、この生涯において、神から恵みを受けることを日ごとの自分の仕事としなければならない。それは、利己的に貯めこむためではなく、自分たちに関係のある人々に祝福を分け与え、彼らが霊的な事柄において教育を受けることができるように助けるためである。(手紙 191, 1901 年 5 月 6 日 W・Lフーバー氏へ)

#### 健康のためのレシピ

「だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のために すべきである。」(コリント第一 10:31)

主はご自分の使命者たちが健康改革の美しい真理の数々を、他の人々の偏見を引き起こすような方法で提示するようにとは求めておられない。だれ一人として無知の闇の中にいる人々の道につまずきの石を置くことがないようにしよう。節制の原則をもっとも魅力的なかたちで提示しなさい。健康改革を擁護する人々はみな、それを自分たちがこうだと主張する通りのものにするよう熱心に努力しよう。......

食事の問題は忍耐強く研究すべきである。わたしたちは、この問題について 賢く行動するために、知識と賢明な判断力を必要としている。自然の法則に抵抗 せず、従わなければならない。健康には細心の注意を払うべきである。ある人々 は不適切な食物を良心的に慎みながら、同時に身体を適切に維持するために必 要な要素を補給する食物を食さない。わたしたちが食事から取り除いた有害な食 物の代わりに、健康的で味の良い食物を供給しないことによって、健康改革に 反対するような証を担うことが決してあってはならない。

多くの家庭の食事を構成してきたものの代わりとなる食事を用意するにあたっては、多くの機転と分別を用いるべきである。この働きには、信仰、目的の真剣さと共にすべての人の一致した努力が要求されている。さもなければ、健康改革の働きが責められることになる。わたしたちはみな死すべき者であり、味がよく健康的な食物を自ら補給しなければならない。衛生的に調理する方法を知らない人々は、食欲をそそる料理を作るためにどのように健康的な材料を一緒にまぜあわせるかを学ぶべきである。……

わたしたちの食事を単純にすることにおいて知的な進歩をとげよう。神のみ摂 理のうちに、どの国でも体組織を作るために必要な養分を含んだ食物が産出される。これらで健康的で食欲をそそる料理を作ることができる。

絶えず工夫を凝らさなければ、だれ一人として健康的な料理方法に秀でた者となることはできない。しかし、偉大な教師からの感動と教えに心が開かれているすべての人々は、知識と技能において成長する。彼らは多くのことを学び、そしてまた他の人々に教えることができる。なぜなら、キリストが技能と理解力を与えて下さるからである。(手紙 177, 1901 年 5 月 7 日、アイオア総会の兄弟姉妹たちへ)

## 天のために準備する

「いったい、あなたを偉くしているのは、だれなのか。 あなたの持っているもので、 もらっていないものがあるか。 もしもらっているなら、 なぜもらっていないもののよ うに誇るのか。」(コリント第一 4:7)

主が人の世俗的で野心的な事業、すなわち思いが夢中になってしまったら、その人を将来の世界にふさわしくない者としてしまうものを打ち砕かれるのは、人が神の命で測れる命を自分のものとすることができるためである。

神はわたしたち一人びとりをテストしておられる。このお方はわたしたちにタラントをお委ねになり、わたしたちがそれらを用いるにあたり、完全に無我であるかどうかをご覧になる。このお方はわたしたちにはっきりと「小事に忠実な人は、大事にも忠実である」。「また、もしほかの人のものについて忠実でなかったら、だれがあなたがたのものを与えてくれようか」と教えてくださる (ルカ 16:10, 12)。

わたしたちはキリストの王国の律法によって試されなければならないのだということを覚えていよう。わたしたちは自分自身のものではなく、好きなようにしてはならない。わたしたちは代価をもって買われたのであり、キリストの王国の律法、十の聖なる規則は、わたしたちが到達すべき標準を提示している。神はご自分の律法への不忠実を許されない。このお方は、人が従うかどうかをご覧になるために、すべての人を試される。

人は罪を犯した。そして死が罪の刑罰である。キリストは刑罰を負われ、そして人のために恩恵期間を確保された。この恩恵期間のうちに、わたしたちは今生きている。わたしたちが滅びることなく、永遠の命を得られるようにとご自分のひとり子を与えてくださったお方の御目に価値がある者かどうかを自ら表すための機会が、わたしたちに与えられてきた。

わたしたちの主人は、ただお一人、キリストである。わたしたちはこのお方の 血で買われた嗣業であることを覚えていなければならない。神のご意志がわたし たちの意志とならなければならない。肉体的、精神的、そして霊的賜物がわたし たちのものとして与えられてきた。聖書には、神のみ旨がはっきりと知らされてい る。神はすべての人が神の事柄についてますます知識を得、彼が向上し、ます ます精練され、高尚にされ、精練されるような方法でその賜物を用いるようにと 期待しておられる。

この世において、男女は天の高貴な者たちの中に場所を得るのにふさわしい者とならなければならない。この世において、彼らは天の宮廷に上げられる準備をしなければならない。聖書が指示するとおりにこの働きに従事する人々は、キリストの恵みを通して、門を通って都に入るすべての人々がどのようにならなければならないかという模範になるのである。(手紙 80, 1903 年 5 月 8 日、J・H・ケロッグ博士へ)

#### 警告の夢

「わざわいなるかな、その隣り人に怒りの杯を飲ませて、これにじぶんの瓶をお しあて、酔わせ……ようとする者よ。」(ハバクク 2:15 英語訳)

わたしは、なぜあなたがそれほど自分の家庭と家族から、そして安息日に神の家から離れて、また祈祷会を欠席しているのか不思議に思っている夢を見た[この兄弟は西海岸にレジャー用のボートを所有していた]。瞬時に、わたしはあなたのボートのデッキにいた。そこには陽気な人々がいて、話したり、笑ったり、冗談を言ったり、カード遊びをしたりしていた。あなたは彼らの中にいた。わたしはその人々の損なわれた食欲に合ったような質の食物が用意された食卓を見た。わたしは彼らが酒をくれと要求しているのを聞いた。

わたしは、キリストの弟子であると主張している某兄弟、このお方の再臨を待ち望み、またそれを早めていると公言しているあなたの声が、「さあ、紳士諸君」というのをびっくりして聞き、顔を上げた。あらゆる種類のワインが彼らの前におかれ、そして彼らはそれらを飲んだが、あなたは彼らと一緒に飲んだ。……

わたしの夢をこれまで何度もわたしに説明してきた若い人が、あなたに向かって語り、次のように言った。「酔っ払いと共に飲み食いをしている。……だれがこれらの飲み物を買ったのですか」。あなたは答えた。「わたしがこれらを買ったのです。なぜなら、わたしはこの点において彼らの食欲を喜ばせなければ、わたしと一緒に舟に乗る仲間を得ることができないのですから」。

これで、あなたが神を喜ばせておらず、あなたがサタンの誘惑の畑で自分自身を喜ばせているという証拠は十分である。あなたは水上にいたいというただならぬ愛着を満足させるために、恐ろしい犠牲を払っている。もしこれが、神があなたにおさせになりたいと思われる働きをするより優先するあなたの選択であるならば、あなたは自分自身の道を追求することをもはや許されはしないであろう。あなたは両方の世界を失うことになる。

わたしはこの夢のあと、もう一つの夢を見た。わたしはあなたがまたタバコを吸っているのを見た。わたしはこれらのみじめな習慣を一度は克服したのに、またあなたが再開し、そしてあなたが、自分の魂を安ものの市場で売り渡しながら、一歩一歩闇へと後戻りしていることを考えた。しかし、某兄弟、わたしはあなたに今お尋ねする。あなたは何をしようとしているのであろうか。あなたは差し迫った危険のうちにいるのである。……

わたしは、母親が自分の息子にするように、あなたに警告する。あなたの道徳心を危険に陥れ、ゆがんだ食欲を養うことによって不名誉にあなたを巻き込むこれらのことを避けなさい。……わたしはキリストの大使として、この数ページをあなたに託す。与えられた警告に背を向けることがないように、気をつけなさい。愛を込めて、エレン・G・ホワイトより。(手紙 5, 1877 年 5 月 9 日)

## 神に生きる

「だから人の前でわたしを受けいれる者を、わたしもまた、天にいますわたしの 父の前で受けいれるであろう。しかし、人の前でわたしを拒む者を、わたしも天に いますわたしの父の前で拒むであろう。」(マタイ 10:32, 33)

どうであろうか。わたしたちは日常生活においてキリストを告白しているであろうか。簡素でつつましい服装で身を飾ることによって、自分たちの衣服においてこのお方を告白しているであろうか。わたしたちの飾りは、神の御目に非常に大きな価値のある柔和でしとやかな霊という飾りであろうか。わたしたちは主人のみ働きを前進させようと努力しているであろうか。あなたと世の間の境界線ははっきりしているであろうか。あるいは、この堕落した時代の流行を追おうとしているであろうか。あなたと世俗的な人々との間には相違がないであろうか。不服従の子らのうちに働く同じ精神があなたのうちにも働いているであろうか。

もしわたしたちがクリスチャンであれば、わたしたちは歩まなければならない 道が自分たちの生来の傾向にぶつかるものであったとしても、キリストに従うので ある。あなたにこれを着なさいとか、あれを着なさいと言うことには意味がない。 なぜなら、もしこれらの空しいことに対する愛着があなたの心のうちにあるなら ば、あなたが飾りをとったとしても、それはただ木から枝葉を切り落としたような ものだからである。生来の心の傾向は再び頭をもたげるようになる。あなたには あなた自身の良心がなくてはならない。

ああ、キリストがご自分の貧しさによってわたしたちが富む者となることができるように、このお方が貧しくなられたことを覚えているならば、わたしたちはこのお方のみ名に誉れを帰し、このお方のみ働きを前進させようと努力しないであろうか。わたしたちは枝がぶどうの木につながっているように、このお方のうちに宿っているべきである。イエスは「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。…… あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう」(ヨハネ 15:5-8)。

もしわたしたちが自分たちの主のこのご命令を果たしたならば、わたしたちの教会における事態は変わっていたはずであり、そしてわたしたちは神の御霊の深い感動を受けるということがどういうことかを知っていたであろう。わたしたちに必要なのは、木の根に斧が置かれることである。わたしたちは世に対して死に、自己に対して死に、そして神に生きる必要がある。わたしたちの命はキリストと共に神のうちに隠されていなければならない。それはこのお方が現れるときに、わたしたちもこのお方と共に栄光のうちに現れるためである。わたしたちはキリストの近くに来る必要がある。それは、わたしたちがキリストと共にいて、このお方から学んだということを、人々が知ることができるためである。……あなたの目をキリストにしっかりと留めていなさい。思いのへりくだりをもって、神に近づくことを求めなさい。言葉と行為と生活において、キリストを告白しなさい。(ルビュー・アンド・ペラルド 1892 年 5 月 10 日)

## 道、真理、命

「あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」(ヨハネ 15:7)

神のみわざをなすためには、何か大きなことをしなければならないと思って、イエス・キリストの単純さを見過ごしている者が多くある。一時的な性質の事柄が他方の関心をすっかり奪い、彼らは永遠の現実のためにほとんど時間も考えもない。自分たちの思いを霊的な事柄から引き離す思いわずらいに疲れ、彼らは神との交わりの時間を見出すことができない。彼らはたえず、どのようにして神のみ言葉を研究し、実行する時間を見出すことができるであろうかと、自問している。

キリストはすべての魂を試す困難をご存知であられ、次のように仰せになる。「わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながっていよう。枝がぶどうの木につながっていなければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていなければ実を結ぶことができない。わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」(ヨハネ15:4,5)。

わたしたちの第一にして最高の義務は、自分がキリストのうちに宿っていることを知ることである。このお方が働いて下さらなければならない。わたしたちば主は何と仰せになるか」を知ろうと求め、自分の生涯をこのお方の導きに明け渡さなければならない。宿っておられるキリストの御霊がわたしたちにおられるならば、すべてが変わってくる。救い主だけが、わたしたちがこれほど必要としている休息と平安をお与えになることができる。そして主を見いだすことができるように主を求めよと招いて下さるすべての招きにおいて、このお方はご自分のうちに宿りなさいと招いておられるのである。これはご自分の許へ来るようにというだけでなく、ご自分のうちにとどまっていなさいとの招きである。来るようにわたしたちを感動させて下さるのは神の御霊である。わたしたちがこの休息と平安を持つとき、日常の心配がわたしたちを下品で荒っぽい無礼な者にしたりはしない。わたしたちはもはや自分自身のやり方や意志に従うことをしない。枝がぶどうの木につながっているようにキリストのうちに宿り、神のみ旨を行なうことを望むのである。

キリストはご自分が「道であり、真理であり、命である」と宣言しておられる(ヨハネ14:6)。天への道は、主に贖われた人々がそのうちを歩むために敷かれた狭い道として表されている。しかし真理がこの道を一歩ごとに照らしている。……

救いとはわたしたちにとって、魂と体と霊とを完全に明け渡すことを意味している。わたしたちの性質にある御しがたい要素のために、感情がしばしば支配権を握る。罪人にとって唯一の希望は、罪をやめることである。こうして彼の意志はキリストのご意志と調和するようになる。彼の魂は神との交わりのうちに入れられるようになる。(原稿 73, 1899 年 5 月 11 日 「わたしのうちに宿りなさい」)

## 求め、信じ、要求しなさい

「偽りを言うくちびるは主に憎まれ、真実を行う者は彼に喜ばれる。」(箴言 12:22)

わたしにはなすべき働きがあり、キリストの恵みのうちにわたしはそれを行う。 わたしの唯一の心配は、偽りを信じるほうが、真理を信じるよりもずっとたやすい傾向のある人々のことである。彼らのためにわたしはどうしたら良いであろうか。 彼らが偽りを述べることも、また偽りが述べられた後でそれを愛することもないよう、彼らを救うために、わたしに何ができるであろうか。わたしができることはただ、尊い救い主、イエスを彼らの前に、彼らの型として提示することだけである。 もし彼らがイエスを愛するならば、彼らは純潔で、無害な、汚されていない者となる。彼らは自らを疑いや懐疑的な、また不信の雰囲気ではなく、信仰の雰囲気で取り囲むようになる。彼らはイエスのことや、天のこと、またクリスチャンの義務、クリスチャンの戦い、そしていかにサタンの力に首尾よく抵抗するかについて語るようになる。彼らは、自分たちが他人の欠点だと思うことを食い物にして、ハゲワシのようになったりはしない。

ああ、キリストが彼らに表されることを願う。ああ、彼らがこのお方の比類のない魅力を深く考えることを愛することを願う。ああ、彼らの心がこのお方の愛を知ることができるようにと願う。そのためには、わたしたちはサタンの策略に無知ではいられない。わたしたちの武器は、わたしたちのもっとも執念深い敵に向けられる。わたしたちは信仰によって純粋な光を見るべきである。天の御使たちの目は、わたしたちの献身を認めようと、愛をもってわたしたちを一心に見つめている。わたしたちは、サタンが一歩でも間違えるのを、何でも見張っていることを信仰によって見るべきである。すなわち、彼はわたしたちの一致と愛の欠乏を有利に用いたり、ゆがんだ道を敷いたり、神の御使たちの前で狂喜してこれらの人々を責めたてたりすることによって、彼がわたしたちの不利に用いることができるものを何でも見張っている。……

わたしたちには罪とサタンの働きをくい止める力はないが、助けは備えられている。求めよ、そうすれば与えられるであろう。二人か三人で約束を主張することができ、もし彼らが何でもご自分の名によって求めるならば、このお方はそれをかなえて下さる。このお方は求めに応じて、これらのことをわたしたちのためになして下さるのである。

ああ、兄弟よ、あなたがサタンのわなを打ち破るために必要としている援助を あなたに与えることのできる唯一のお方に助けを求めないほど、自立心を持って はならない。あなたは油断なく、熱心で、忠実で、真実でなければならない。謙 遜で、信頼のおける、優しさと同情に満ちた者でなければならない。……

あなた自身の心の中で働きを始めなさい。それから、あなたの心にキリストの御霊によってバプテスマを受けなさい。あなたの子供たちを神の小羊へと導きなさい。(手紙11,1883年5月12日、カリフォルニアのある信徒へ)

#### 従うことを愛する

「もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにおるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにおるのと同じである。」(ヨハネ 15:10)

キリストはご自分の民が神の律法に従うことに非常な重要性をもたせられた。彼らはそれらについて知的な認識を持ち、それらを自分の日常生活に持ち込まなければならない。人は神の律法を守ることができない。ただ彼がキリストのうちにおり、キリストが彼のうちにいるときだけ守ることができるのである。そして人が、このお方の戒めについての光を持ちながら、そのうちのもっとも小さい点でも軽視していながら、キリストのうちにいることはできない。堅固で、自発的なこのお方のみ言葉への服従によって、彼らは神から遣わされたお方への愛の証拠を示すのである。

神の戒めを守らないということは、このお方を愛さないということである。だれ一人として、み父のひとり子であられるお方を愛さないかぎり、神の律法を守ることはない。そしてまた確かに、もし彼らがこのお方を愛するならば、彼らはこのお方への服従によってその愛を表現するのである。キリストを愛するすべての人は、み父に愛される。そしてこのお方はご自分を彼らに表されるのである。彼らのあらゆる危急と困惑において、彼らにはイエス・キリストという助け手がいるのである。

キリストは自分たちにはご自身を表してくださるのに、なおこのお方が世には見えないお方であるというのが、弟子たちにとって奥義であった。彼らはキリストの言葉の霊的な意味が理解できなかった。彼らは外見や目に見える表われを考えていた。彼らはキリストのご臨在が自分たちと共にあるのに、世は見ることができないという事実を飲み込むことができなかった。彼らは霊的な表われの意味を理解していなかった。

偉大な教師は、弟子たちに可能な限りの励ましと慰めをお与えになりたいと切望しておられた。なぜなら、彼らは痛ましいほど試されることになるからであった。 しかし彼らにとって、このお方の言葉を把握することは難しいことであった。彼らはまだ、ことごとく愛の服従によって香る内なる霊的な命が、彼らの必要としていた霊的な力を自分たちに与えるのだということを学ばなければならなかった。

神のみかたちそのものが人類のうちに印象づけられ、反映されなければならない。冷たい心はよみがえり、神の愛、すなわちあなたのために明示してくださった贖い主の愛と結合して脈打つ愛で輝かなければならない。……

神の民を当惑させる試練が起こらなければ、民の信仰は決して知られることがないし、また人間という帆船をしっかり安全に引き止めている錨の強さが知られることもない。(原稿 44, 1897 年 5 月 13 日「キリストの代表者たち」)

#### 同情深いクリスチャン

「この世の君が来るからである。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない。」(ヨハネ 14:30)

救い主はその生涯のあらゆる習慣において、神が地上におけるご自分の教会はどのようになるべきだと計画しておられるか模範をお与えになった。これを人々に伝えなさい。キリストはご自分の教会をみ父の前にしみも傷もないものとして捧げたいと望んでおられる。

救い主の生涯は、そのごく当初から貧困の生涯であった。このお方の子供時代は骨折り仕事に費やされた。大工の仕事場で働きながら、ご自分が家族の一員としてご自分にもたらされた重荷を負い、このお方はしばしばお疲れになった。このお方は堕落した時代に生きておられた。しかし、このお方は問りを取り囲む悪によって堕落なさることもなく、偽りの邪悪な人々の品性に感化されることもなかった。野外や自然の光景の中で、このお方は骨折りからの休息と霊的な命のための食物を見出された。表面の下をごらんになって、自然の奥義から知識を集められ、このお方は平安と喜びで満たされるのであった。

その公生涯の日々の間、救い主は絶えず、ずる賢く偽善的な人々に見張られていた。スパイが、このお方に対する何らかの偏見を引き起こすために用いることができるようなものを何かこのお方の唇から引き出そうと、絶えずこのお方の後をつけねらっていた。繰り返し、繰り返し、彼らはこのお方に悪行の罪があるかのように見せかけようと試みた。彼らが、このお方に質問して、その答えを民からこのお方への非難を引き起こすために用いることができないかと、彼らがこのお方にわなを仕掛けたことがあった。しかしそう企てるたびに、彼らは当惑して戦場から退散せざるを得なかった。彼らの行動は、キリストの答えによって、真実な光のうちに明るみに出された。救い主の説教は聴いている群衆に真理の力を提示した。彼の行動をスパイするために送られた人々でさえ、自分たちを遣わした人々に、「この人の語るように語った者は、これまでにありませんでした」という報告をもって帰らざるを得なかったのである(ヨハネ7:46) ……。

あなたの会話が恵みのあるものとなるようにしなさい。なぜなら、キリストがあなたの語る言葉を聞いておられるからである。互いへの同情が、あなたが言うすべての言葉に混ぜられているようにしなさい。そうすればあなたはキリストのご品性を表すようになる。キリストの礼儀作法は優しく、謙虚であった。このお方に従う者として、わたしたちはこのお方のご性質にあずかる者とならなければならない。わたしたちは日ごとに偉大な教師であられるお方から学ぶ者となる必要がある。それは魂を囲む雰囲気が霊的な命で満ちているためである。(手紙 158, 1908 年 5 月 14 日、エドソン・ホワイトへ)

## 一步一步

「主人は彼に言った、『良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに 忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ』。」(マタイ 25:21)

ああ、何と多くの人々が、何か大きな自己犠牲の働きをする機会を待ち望みながら、神が彼らを試すためにお与えになる日ごとの小さなテストを見過ごしていることであろうか。 男女のうちにある精神を発達させ、品性を決定するのは、生活上の小事である。人はこれらの些細なことをなおざりにしていながら、厳しいテストが負わされるときにそれらに耐える準備をすることはできない。……

あなたの品性建設は決して終わってはいない。毎日、建築物に良いレンガか、もしくは悪いレンガが積まれるのである。あなたはゆがんだ建物を建てるか、もしくは神のための美しい宮となる厳密で正確な建物を建てるかのいずれかである。であるから、大きな機会を待ち望んで、小さな親切な行為を行う現在の小さな機会をなおざりにしてはならない。言葉によって、口調によって、しぐさによって、まなざしによって、あなたはイエスの精神を表すことができる。これらの小さいことをなおざりにしながら、なお自分が主人であるお方のためにすばらしいことができる用意があるとうぬぼれている人々は、完全に失敗に終わる危険のうちにある。

人生は大きな犠牲やすばらしい偉業ではなく、小事で成り立っているのである。親切と愛と礼儀は、クリスチャンのしるしである。……あなたはイエスのご品性のうちに存在している貴い資質を大事にする必要がある。……わたしたちが互いに交わるとき、いつも他人の経験には、人間の目からは秘されている章があることを覚えていよう。天の書物に記された悲しい歴史がある。それらはせんさく好きな目からは神聖に守られている。そこには、まさに家庭の中で生じる、苦しい環境との長くて困難な闘いが記録されている。それらは来る日も来る日も勇気と信仰と確信を奪い、ついには人間性そのものが堕落してしまうかのように見える。しかしイエスはこれらをすべてご存知である。そしてこのお方は決してお忘れにならない。そのような人々にとって、親切な言葉や愛情の言葉は、み使たちの微笑みのようにありがたいものである。真の友が強くて助けになる手でしっかりとつかんでくれるとき、それは金銀以上に価値がある。それは彼が人としての人間性を取り戻す助けとなる。(手紙 16, 1886 年 5 月 15 日、セント・ヘレナ治療院の二人の医者へ)

#### 全面的に屈服する

「わたしはキリストと共に十字架につけられた。生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。」(ガラテヤ 2:19, 20)

神はあまさずに屈服するのでなければ、お受け入れにならない。二心な罪深いクリスチャンは、決して天に入ることができない。そこで彼らは幸福を見出さないであろう。なぜなら、彼らは王家のメンバーを治める高くて聖なる原則を何も知らないからである。

真のクリスチャンは魂の窓を天に向かって開きつづけている。彼はキリストとの交わりのうちに生きている。彼の意志は、キリストの意志に一致するのである。彼の最高の願いは、ますますキリストのようになることである。……

熱心に、また倦むことなく、わたしたちは、わたしたちに抱いておられる神の理想に到達するために奮闘しなければならない。わたしたちはこれをあたかも苦行であるかのようにするのではなく、真の幸福を得る唯一の手段としてなすのである。平安と喜びを得るための唯一の方法は、わたしたちのためにご自分の命を与えて下さったお方、すなわちわたしたちが生きられるようにと死なれ、また勝利しようと苦闘している人々の努力にご自分の力を結合させるために生きておられるお方と生きたつながりを持つことである。

聖潔とは、神と絶えず同意することである。わたしたちは、世がわたしたちの生活のうちに真理の救う力の啓示を見ることができるように、キリストがわたしたちになってほしいとこれほど大いに望んでおられること、すなわち行いと真理においてクリスチャンとなるために奮闘しないであろうか。この世はわたしたちの予備校である。ここにいる間、わたしたちは試練や困難に直面する。絶えず、神の敵はわたしたちをその忠誠から引き離そうと努力している。しかしわたしたちのために命を与えて下さったお方にわたしたちがぴったりとくっついている間は、わたしたちは安全である。

全世界はキリストの抱擁のうちに集められた。このお方は死の力を持っていた者を滅ぼし、信じるすべての魂の罪を取り除くために十字架上で死なれた。このお方は奉仕の祭壇の上に自らを生きた燃える犠牲として捧げるように、わたしたちに求めておられる。わたしたちは自分たちの持っているすべてのものと自分たちの全存在をもって神にあますことなく献身するべきである。

この地上の初等学校で、わたしたちは高等学校に入学する準備となる教訓を学ばなくてはならない。そこではわたしたちの教育が、個人的なキリストの教えの下に続けられる。そのとき、イエスはわたしたちにご自分のみ言葉の意味を明らかにして下さる。わたしたちは、まだわずかな恩恵期間が残っているこの間に、神の王国における命、永遠の祝福を求めている男女らしく行動しようではないか。(レピュー・アンド・ヘラルド 1907 年 5 月 16 日)

#### 心の聖潔

「しかし、それらの日の後にわたしがイスラエルの家に立てる契約はこれである。 すなわちわたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にしるす。わたしは 彼らの神となり、彼らはわたしの民となると主は言われる。」(エレミヤ 31:33)

神の律法が心に記されるとき、それは純潔で聖なる生活のうちに表されるようになる。神の戒めは死んだ文字ではない。それらは霊と命であり、想像や思想でさえ、キリストのみ旨に屈服させる。それらが記された心は、勤勉を尽くして守られる。なぜなら、そこから命の泉が流れ出るからである。イエスを愛し、戒めを愛する人々はみな、悪と見えることさえも避けようと努力する。それは彼らがそうしなければならないからではなく、彼らが純潔な模範(モデル)を写し取っているからであり、自分たちの心に記されている律法に反することはすべて嫌悪しているからである。彼らは自己満足を感じることなく、神に信頼している。このお方だけが彼らを罪と不純から守ることがおできになるのである。彼らを取り囲んでいる雰囲気は純潔である。彼らは自分自身の魂も他人の魂も堕落させない。公義を行い、憐れみを愛し、神のみ前に謙遜に歩むことは彼らの喜びである。

終わりの時代に生存している人々の前にある危険は、純粋な宗教の欠如、また心の聖潔の欠如である。神の改心させる力は、彼らの品性を変えることにおいて働いてこなかった。彼らはユダヤ国民がしたように、聖なる真理を信じると公言している。しかし、彼らは真理を実践することを怠るために、聖書も神の力もどちらも知らない。神の律法の感化力はいたるところにあるが、魂の中にはなく、魂を真の聖潔のうちに再生することがない。……

神は、聖書の教師が自分の品性と家庭生活において、自分が同胞仲間に教えている真理の原則のお手本となるべきことを定めておられる。

どういう人であるかということには、その人が何を語るかということ以上に大きな感化力がある。静かで一貫性のある信心深い生活はすべての人に知られ、読まれる、生きた手紙である。人はみ使いのように語り、記しながら、その行いは堕落した悪魔に似ていることもある。……真の品性は外から形づくられたり、着せたりするようなものではなく、中から輝き出るものである。もし真のいつくしみ深さ、純潔、柔和、へりくだり、そして公平が心に宿っていれば、その事実は品性のうちに反射するようになる。そしてそのような品性には満ち満ちた力がある。(レビュー・アンド・ヘラルド 1887 年 5 月 17 日)

#### 御父の家に対する忠誠

「それは、からだの中に分裂がなく、それぞれの肢体が互にいたわり合うためなのである。…… あなたがたはキリストのからだであり、ひとりびとりはその肢体である。」(コリント第一12:25-27)

キリストにあってわたしたちはみな一つの家族のメンバーである。神がわたしたちの御父であられる。そして、このお方はわたしたちがご自分の家族のメンバーに関心をもつことを期待しておられる。……親木であるぶどうの木の枝として、わたしたちは同じ源から養分を吸い上げ、そして自発的な従順によって、キリストと一つになる。

もしキリストの家族の一員が誘惑に陥るならば、他のメンバーが優しい関心をもって彼の世話をし、間違った道に迷い込んだ足をとどめようと努め、そして純潔で聖なる生活へと彼を勝ち取るのである。神はご自分の教会のすべてのメンバーにこの奉仕を要求しておられる(コリント第一12:12-27参照)。

ある者は、光を受けて与えないために、本物の霊的な経験をもっていない。 彼らは誘惑があまりにも魅惑的なかたちでやってくるためにずる賢い敵の欺きだ と認識できずにしばしば驚かされる。彼らが持つ必要のある経験を自分のものと することはいかに重要なことであろう。主の家族のメンバーは賢く、油断がなく、 自分たちより弱い兄弟たちをサタンの隠された網より救うために自分たちの力をつ くしていなければならない。

これは家庭伝道の働きである。そして、それはそうしてもらう人のためと同様にそうする人々にとって助けとなる。わたしたちが家庭の輪の中で示す優しい関心、わたしたちが自分の兄弟姉妹に語る同情の言葉は、わたしたちを主の家族のメンバーのために働くのにふさわしい者とする。彼らは、もしわたしたちがキリストに忠実であり続けるならば、永遠にわたって一緒に生きる人々なのである。

「死に至るまで忠実であれ。そうすれば、いのちの冠を与えよう」とキリストは仰せになる (黙示録 2:10)。そうであれば、主の家族のメンバーはいかに注意深く自分たちの兄弟姉妹を守るべきであろうか。彼らと友達になりなさい。もし彼らが貧しければ、そして食物や衣服を必要としていれば、彼らの霊的な必要と同様に、彼らのこの世の必要にも奉仕しなさい。こうしてあなたは彼らにとって二重の祝福となるのである。……

わたしたちは命の冠を得ようと奮闘している人々を取り扱う際に、どれほど優しくあるべきであろう。愛と優しさのうちに窮乏のうちにある魂を助けた人は、別の時には自分自身が希望と勇気の同情深い言葉を必要とするかもしれないのである。(原稿 63, 1898 年 5 月 18 日、「家庭伝道の働き」)

#### 服従が聖化である

「また愛のうちを歩きなさい。キリストもあなたがたを愛して下さって、わたしたちのために、ご自身を、神へのかんばしいかおりのささげ物、また、いけにえとしてささげられたのである。」(エペソ 5:2)

このお方の神性がことごとく満ちみちておられるもののうちに、またこのお方のしみなき人性のあらゆる栄光のうちに、キリストはご自身をわたしたちのために完全で自由な犠牲として与えて下さった。そして、このお方に来る者は各々、あたかも自分のためだけにこのお方が代価を支払ってくださったかのように、このお方を受け入れるべきである。アダムにあってすべての者が死ぬように、キリストにあってすべての者は生きるようにされる。なぜなら従順な者は不死へとよみがえらされ、そして不法者は、自分が犯した律法の刑罰である死を受けるために死からよみがえらせられるからである。

神の律法に対する服従が聖化である。魂におけるこの働きに関して、誤った考えを持っている人々が多くいる。しかしイエスはご自分の弟子たちが真理を通して聖化されるようにと祈られ、次のように加えられた。「あなたのみ言葉は真理であります」。聖化は瞬間的なものではなく、服従が継続的であるように、漸進的な働きである。サタンがわたしたちに自分の誘惑で押し迫るあいだは、自己征服のための戦いをくり返しくり返し戦わなければならない。しかし服従によって、真理は魂を聖化する。真理に忠実な人々は、キリストの功績を通して、これまで多岐にわたる生活環境の一つ一つによって形成されてきた品性のすべての弱さを克服するようになる。

多くの人々は、自分たちは聖化されているために罪を犯すことができないという立場を取ってきた。しかしこれは邪悪な者の欺瞞的なわなである。罪に陥る危険性は絶えずある。なぜなら、キリストはわたしたちに誘惑に陥ることがないように、祈り、見張りなさいと警告してこられたからである。もしわたしたちが自己の弱さをいつも自覚しているならば、わたしたちは自信を持ったり、危険に無頓着であったりすることはないであろう。かえってわたしたちは自分たちの力の源であられるお方、われらの義であられるイエスを求める必要性を感じるのである。わたしたちは悔い改めと悔悟のうちに、自分自身の有限な弱さを絶望的なまでに自覚しながらやってきて、自分たちが主人であられるお方のご用にふさわしい器となることができるためには、日ごとにキリストの血の功績を自分のものとしなければならないことを学ぶのである。このように神に寄り頼むあいだは、わたしたちは真理に対して戦いを挑んでいるところを見出されるのではなく、いつも正しい側に自分の立場を取ることができるのである。わたしたちは聖書の教えを固守すべきであり、世の慣習や伝統、人の格言や行いに従うべきではない。(サインズ・オ/ムンズ1890年5月19日)

## キリストの最高の奇跡

「大ぜいのユダヤ人たちが、そこにイエスのおられるのを知って、押しよせてきた。 それはイエスに会うためだけではなく、イエスが死人のなかから、よみがえらせた ラザロを見るためでもあった。」(ヨハネ12:9)

シモンの家の晩餐には多くのユダヤ人が共に集まった。なぜなら、彼らはキリストがそこにおられることを知っていたからである。そして彼らはただイエスを見に来ただけではなく、イエスが死人からよみがえらせたラザロを見に来たのであった。ラザロのよみがえりはキリストの生涯における最高の奇跡であった。ユダヤ国民に最後のテストが与えられたのであった。ラザロはキリストのための証を担うために死人からよみがえらされた。

多くの人は、ラザロには何か語るべきすばらしい経験があるであろうと思った。彼らは彼が自分たちに何も語らないので驚いた。しかしラザロには語ることは何もなかった。霊感の筆はこの主題に光を与えてきた。「死者は何事をも知らない、……その愛も、憎しみも……すでに消えうせて」(伝道の書 9:5, 6)。

しかしラザロにはキリストの働きに関して担うべきすばらしい証があった。彼は神の力の生きた証拠であった。確証と力をもって、彼はキリストが神の御子であられることを宣言した。そして人々にキリストを殺害することによって彼らが何を得るかと問うたのであった。

キリストの神性に関して、圧倒されるほどの証拠が祭司たちに与えられた。しかし彼らはあらゆる光に抵抗すると心を決めてしまった。そして彼らは自分たちの思いの部屋を閉ざし、光が少しも入ることを許さなかった。

イエスに対して示された栄誉は、律法学者たちやパリサイ人たちをいらだたせた。彼らはラザロをも殺そうと相談した。「それは、ラザロのことで、多くのユダヤ人が彼らを離れ去って、イエスを信じるに至ったからである」(ヨハネ12:11)。ラザロの証はとても明瞭で説得力があり、祭司たちはその論拠に抵抗することができなかった。……であるから、彼らはラザロを殺そうと画策した。……彼らはラザロを秘密裏に排除し、そうすることによってキリストの死が評判になることを減じようともくろんだ。彼らは、目的は手段を正当化すると論じた。しかし彼らは自分たちの会議にニコデモとアリマタヤのヨセフを招集してはならなかった。なぜなら、そうしたら彼らの殺人計画は反対されるからであった。

彼らはラザロに対して何の告発もすることができなかった。しかし否定できない証拠を認めるよりは、彼らはラザロを殺そうと企てた。人間は自ら神より分離するときにそのようになる。一度不信が思いを捕らえると、心はかたくなになり、どんな力も和らげることはできないのである。(原稿 47, 1897 年 5 月 20 日 ユダ」)

#### キリストと一つ

「主の名を呼ぶ者は、すべて不義から離れよ……もし人が卑しいものを取り去って自分をきよめるなら、彼は尊いきよめられた器となって、主人に役立つものとなり、すべての良いわざに間に合うようになる。」(テモテ第二 2:19, 21)

キリストと一つになることは、聖霊によって思いが新たにされることにかかっている。こうしてわたしたちはキリストからわたしたちの罪の許しを受け、新しい命のうちに歩むために力づけられるのである。愛によって働き魂を清める信仰を持っている人は、きよめられた器であり、聖化されて、主人の役に立つようになる。自己は死んでいる。……

あらゆる分離、あらゆる利己的な考え、言葉、そして行動は、聖くない霊が 思いに働いた結果である。この霊の感化の下では、救い主を表していない言葉が 語られる。栄光の望みであるキリストがそのうちにかたちが造られていない。この ように生きる人々は、聖徒のように装うことができるかもしれないが、罪人である。

キリストを受け入れる人々は、柔和で心のへりくだった者である。キリストは 彼らの心のうちに生きた水の泉を開き、そこからは永遠の命がわき出て、他人の 魂を清新にする。命のパンを食べ、救いの水を飲む人々の生涯は、神の恵みに よって精練されるのである。

すべての者は、み言葉を研究しよう。だれ一人、自分の魂にあまりにもたくさんの重荷を負って、キリストが与えてくださった尊い教訓を研究することができないようなことがあってはならない。……

神のみ言葉は半分も理解されていない。もし各々が自分自身の魂のために断食し、熱心な祈りをもって神のみ言葉を研究し、そして自分がみ言葉のはっきりとした知識を獲得するのに役立つ書物だけを読むならば、神の民は、今自分たちが表す以上に、はるかにもっと霊的に健康で力強く、はるかにもっと霊的な知識と理解があったことであろう。わたしたちは神を求める必要がある。それはわたしたちがこのお方が自分の魂に尊いことを見出すことができるためである。わたしたちはこのお方から決して離れることなく、このお方に常客また連れ合いとなっていただかなければならない。

神のうちにキリストと一つになるということは、すべての魂の特権である。しかしこうなるためには、わたしたちは柔和でへりくだった者、教えをよく受ける従順な者とならなければならない。わたしたちは熱心な祈りと忠実な実践によって、愛によって働き魂をきよめる信仰を手に入れることを勤めとする人々の中に入ろうではないか。(手紙 75, 1900 年 5 月 21 日、世界総会総理G・A・アーウィン長老へ)

#### 精錬の過程

「主ご自身、試錬を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである。」(ヘブル 2:18)

わたしは自分に与えられた指示を書き記すために一二時に目覚めた。 ……

次の言葉が語られた。「わたしは世の光である。あなたの魂の光を人間の知恵から灯すなら、あなたの光は闇の中に立ち消えになってしまう。わたしの知恵を求めなさい。そうすればあなたは間違いのない勧告によって導かれる。この案内はすべての神の子が持つことのできる特権である。求めよ、そうすれば受けるであろう。しかし信じる信仰のうちに求めなさい。神のみ言葉に一致するものを求めなさい。信じるならば、あなたは受けるのである」。

キリストは、わたしたちの力の源であられる。このお方の教えを研究しよう。このお方がわたしたちにどのようにして勝利するかを教えることができるように、み父がご自分のひとり子をわたしたちの世で生き、誘惑の下におくために与えて下さったことによって、み父はわたしたちが敵の捕らわれ人となることがないように、十分な備えをなされた。堕落した敵に対面し、キリストは人類のために勝利して下さった。このお方はわたしたちのようにあらゆる点において誘惑にあわれたが、このお方は神の力のうちに抵抗なさった。それはわたしたちが誘惑されたときに、このお方がわたしたちを救うことがおできになるためであった。

このお方の神性にあずかる者となることによって、わたしたちはサタンの誘惑を見分けることを学ぶべきである。そしてこのお方の恵みの力によって、欲による世の堕落に勝利しなければならない。かつては罪深い人間であった人が、与えられたキリストの功績を通して精錬され、純潔にされることができる。そして人類同胞の前に、神の共労者として立つことができる。神を熱心に追い求める者に、神性が必ず与えられ、キリストの同情が確かに与えられるのである。……

サタンは魂を脱線させるために自分の知恵を凝らして働いている。わたしたちはどうすべきであろうか。主が喜んで立ち上がり、弱い者を強くして下さることを信じよう。

あなたは霊的なことを熟考することに自分の最高の強さを見出すであろう。神のみ言葉の真理の聖化があなたの生活に表れるようにしなさい。これが魂を精錬し高尚にするようにしなさい。主はご自分の仕える僕らがご自分の前にへりくだって歩むことを喜ばれる。「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」(マタイ11:29,30)。(手紙166,1908年5月22日、レビュー・アンド・ヘラルド編集者のW・W・プレスコットへ)

#### わたしたちの嗣業を手に入れる

「ソドム、ゴモラも、まわりの町々も、同様であって、同じように淫行にふけり、 不自然な肉欲に走ったので、永遠の火の刑罰を受け、人々の見せしめにされている。」 (ユダ 7)

わたしたちの世の様相はまことに憂慮すべきである。神はご自分の聖霊をよこしまな都市より取り去りつつある。これらの都市は、洪水前の都市や、ソドムやゴモラのようになっている。これらの都市の住民たちはテストされ、試みられてきた。わたしたちは神が今にも悪を働く思い上がった人々を罰しようとしておられる時にまで及んでいる。彼らはこのお方の戒めを守ることを拒み、このお方の計画のメッセージを軽んじてきた。悪を働く者たちに長く忍耐されるお方は、すべての者に、ご自分を捜し求め、その心をご自分の前にへりくだらせる機会を与えてこられた。

すべての人には、キリストが彼らを癒すことができるように、キリストの許に来て、改心する機会がある。しかし憐れみがもはや差し出されなくなる時が来る。高価な豪邸、建築技能の驚異は、その持ち主が許しの境界を超えたのを主がご覧になるとき、一瞬の警告もなく滅ぼされる。防火対策が施されていると思われている威風堂々とした建物が火によって滅ぼされるが、これはいかに短期間に地上の建築物が廃墟と化すかを物語っている。

マタイの二四章は世に何がおこるかという概要を教えている。わたしたちは終わりの時代の危機のただ中に生きている。罪のうちに滅びつつある人々は警告を受けなくてはならない。主はご自分が資金というタラントを委ねてこられたすべての人々に、自分たちの金銭をこのお方の働きの前進のために捧げることによって、このお方の助け手として行動するよう求めておられる。わたしたちの金銭は主によって貸し与えられた財産であり、それは世に最後の憐れみのメッセージを伝える働きに投資されなければならない。

地上の事物を最重要な利益であるとみなす人、自分の生涯を世の富を得るための努力に費やす人は、まことに乏しい投資をしているのである。彼が自分の信頼していたものが粉みじんになるのを見るときには遅すぎる。永遠の富を獲得することができるのは、ただ自己否定と、地上の富を犠牲にすることによってのみである。クリスチャンが天の王国に入るのは、多くの苦難を通してである。絶えず、彼は良き戦いを戦い、キリストが休むようにとお命じになるときまで、自分の武器を下においてはならないのである。すべてをキリストに捧げることによってのみ、彼は永遠にわたって続く嗣業を自分のものとすることができる。(手紙 90, 1902年5月23日、信徒のジョンソン兄弟へ)

## 真理のための熱心

「主はみずからあなたに先立って行き、またあなたと共におり、あなたを見放さず、見捨てられないであろう。恐れてはならない、おののいてはならない」。(申命記 31:8)

この世においては何も、どんな地上の恩寵も楽しみも、神のご臨在と恩寵には代えられない。このお方がわたしたちの友、また嗣業としておいでにならないのであれば、わたしたちは本当に孤独である。わたしたちは多くの友だちを持つことができるかもしれないが、彼らは決してわたしたちにとってキリストのような存在とはなれない。

過去のとがの許しを見出すことを願う人々は、次のように言って、ありのままキリストの許へ来なければならない。「主よ、わたしは代価をもって買い取られ、あなたの所有でありますが、わたしは過去に自らをあなたにお捧げすることを拒みました。わたしは今、わたしが自分自身のものではないこと、わたしは自分自身を好きなようにしてはならないことを認めます。あわれな罪深い被造物であるわたしをありのままお受け入れください。そしてあなたのためにわたしの罪を取り除くことによって、わたしをあらゆる罪から清め、純潔にしてください。わたしはこれに値するものではありませんが、あなただけがわたしを救うことがおできになるお方です。わたしの罪を取り除き、そしてわたしにあなたの義をお与えください。わたしはこれ以上一日たりとも罪のうちにとどまっていたくないのです。わたしにあなたの義を与えてください。そしてわたしをすべてのあなたの聖なる律法の違反からお守りください」。

イスラエルの聖者を制限してはならない。このお方の愛の表れをもっと見ようと願いなさい。それはあなたが他の人々をこのお方のいつくしみ深さの知識へと勝ち取ることができるためである。

主はご自分の栄光ある完全をかけて、心のへりくだりをもって自分たちの罪を告白しつつご自分を求める人々に、ご自分が彼らの魂にとって尊いお方であることを見出すようになると誓われた。しかし、地上の友人の不興をかうことを恐れて、従うことを拒む人々は、神の友となることはできない。

従いなさい。キリストのために、また自分自身の魂のために従いなさい。あなたの良心が真理だとあなたに教えることに従いなさい。キリストの恵みと義を受け入れなさい。神はあなたを優しく呼んでおられる。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」(マタイ11:28-30)。もしあなたが悔い改めへの招き、また罪からの自由への招きを拒むなら、あなたは神の大いなる日に自分が希望もなく、避け所もなく、不従順な、このお方の律法の違反者であることを見出すことになる。そのときこのお方はあなたにご自分の王国に居場所をお与えになることはできない。あなたが今来ることを、神が助けてくださるように、これがわたしの祈りである。(手紙 80, 1900 年 5 月 24 日、オーストラリアの信徒へ)

#### このお方の陰に座る

「そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ」(エペソ 4:11, 12)

主はわたしたちのだれをも、働きの重荷をひとりで負うのにふさわしい者とはなさらなかった。このお方は様々な思いをもった人間を、彼らが相談し、助け合うことができるように共に結びあわせてこられた。この方法によって、一人の経験の不足や能力が他人の経験や能力によって補われるのである。わたしたちはみな注意深く、キリストの体の肢体としてお互いの自分たちの関係に関してコリント人やエペソ人に与えられた指示を研究するべきである。

エドソン、あなたの働きにおいて、あなたは各々の働き人が、キリストのみ働きにつながっている他の働き人と維持している関係を考慮しなければならない。あなたは他の人々もあなた自身と同様このみ働きに関連したなすべき働きがあることを覚えていなければならない。あなたはあなたの思いを勧告に対して閉ざしてはならない。……

わたしたちは神の奉仕とみ働きに関係しており、わたしたちは個人個人、自分たちが大きな全体の一部であることを悟らなければならない。わたしたちは神から知恵を求め、待ちつつ見張っている精神を持つということがどういう意味であるかを、また疲れて意気消沈したときには自分たちの救い主の許へ行くことを学ばなければならない。人間の判断だけではなく、神に信頼しなさい。

あなたは自分の意志と自分の方法をあきらめること、また神がご自分の助け手となさった人々や、神があなたを助けるようにとご計画なさった人々から光を受けることを学ばなければならない。休息を求めてキリストの許へ行きなさい。このお方にすがりつきなさい。あなたの意志を神の意志に明け渡すまで、十分長くとどまっていなさい。多くの人々は祈るのにあまりにもはなはだしく性急すぎる。彼らは急ぎ足でキリストの愛しいご臨在の陰を通り抜け、おそらくほんの瞬間だけはその聖なる領域にとどまるかもしれないが、勧告を待たない。彼らには座る時間も神なる教師と共にとどまる時間もない。彼らは重荷を負ったまま、自分たちの働きに戻っていく。……

あなたの思想を救い主に固定しなさい。世の喧騒から離れて、キリストの陰に腰を下ろしなさい。このお方があなたに与えようと待っておられる豊かな祝福を受けるためには、こうしなければならない。あなたの思想を高尚で聖なる事柄のために捧げなさい。そのとき、日常生活の骨折りや衝突の騒ぎのただ中で、あなたの霊的な力は新たにされるのである。(手紙 80, 1902 年 5 月 25 日、南部で黒人の間で働きにたずさわっているエドソン・ホワイトへ)

## 特権を主張する

「狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからはいって行く者が多い。命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。」(マタイ 7:13, 14)

あなたができることは何でもしなさい。そうすればあなたの前に道は開ける。 毎瞬間が金である。キリストから離れている魂は福音の希望をつかむようにと説 得されなければならない。

わたしたちはこの世で自分を喜ばせるために生きてはならない。わたしたちには、毎日の生活の中でなすべき厳格で真剣な働きがある。わたしたちは見えないものを信仰によって見る。そうすることによって、道中にある試練や困難が見えなくなるのである。天国がわたしたちのふるさとである。わたしたちはこれほど長くいだいてきた一つの望み、すなわちイエスをそのみ姿のままに拝すること、そしてこのお方のようになるという望みを失うような危険は何一つ犯すことができない。わたしたちはあなたが自分の歩みを守るようにと願う。祈りと信仰の生活を送り、栄光の朽ちない冠を勝ち取りなさい。

わたしたちのうちだれであっても、わたしたちの贖い主によって計画された方法以外に救われる道はない。このお方は、ご自分の地上での生涯において、わたしたちになって欲しいと望まれる自己否定と自己犠牲の実際的な例を残された。キリストは「わたしが天から下ってきたのは、自分のこころのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである」と仰せになるヨハネ 6:38 参照)。

わたしたちは自分自身を喜ばせるために生きていながら、クリスチャンとなることはできない。わたしたちはもし主人に従うのであれば、自己否定という狭い門を通って入らなければならない。この狭い自己否定の道は、信心を公言している多くの人々にとって、歩くのに狭すぎる。彼らはより安易な道を望み、他の道をよじ登る。彼らはわたしたちの贖い主のみ足の跡に従うことを拒むのである。キリストはそのような人々をみな泥棒や強盗とお呼びになる。彼らはクリスチャンの名を語るが、それは彼らのものではない。なぜなら、彼らは自分たちの生涯において、キリストの生涯を代表してはいないからである。彼らは全く神のものでないにもかかわらず、神の子のものである特権をわがものだと主張する。彼らは地上で利己的な生涯を送り、彼らがなすべきであったように真理や魂の救いのためには何一つしてこなかった。これらの自己欺瞞の魂は実に嘆かわしい。彼らは決して天国を見ることはない。なぜなら、彼らはイエスが自分たちのために甘んじて受けられた恥と責めにあずかることを望んでいないからである。

親愛なる子らよ、キリストにあなたの心の中にいていただきなさい。そうすれば、あなたはキリストがそのために死なれたすべての人を愛するようになり、彼らを救うためにあなたがなし得ることはすべてするようになる。(手紙 30, 1873 年 5月26 日、自分の子供たちへ)

#### 主にあって喜ぶ

「わたしたちは、見えるものによらないで、信仰によって歩いているのである。」(コリント第二 5:7)

わたしの頭は今朝とても疲れていた。もやと雲がわたしの思いにたれこめていた。しかし主を信頼しないようにという敵のほのめかしを心にとどめてはおかない。今こそ、わたしが信仰の良き戦いを戦うべき時である。今こそまさに愛によって働き、魂を清めるぐらつかない信仰が必要な時である。わたしはもっと熱心に主を求める。

歴代志上 28:9 で、ダビデはソロモンに自分が預かっているものを与えている。

主の預言者によって、アサにメッセージが伝えられた。「あなたがたが主と共におる間は、主もあなたがたと共におられます。あなたがたが、もし彼を求めるならば、彼に会うでしょう。しかし、彼を捨てるならば、彼もあなたがたを捨てられるでしょう」(歴代志下 15:2, エレミヤ 29:11-13 参照)。わたしの心は信仰のうちに出て行く。信仰とは感情ではない。信仰は視覚ではない。「さて、信仰とは、望んでいる事がらを確信し、まだ見ていない事実を確認することである」(ヘブル 11:1)。

わたしはレカブ人の集会所で午後の三時にピリピ 4:4-7 から話した。「あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。あなたがたの寛容を、みんなの人に示しなさい。主は近い。何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう」。わたしはこの約束がわたしのためであることを信じ、そしてこれを個人的に自分にあてはめる。約束そのものは、約束されたお方が十分にそれを果たすことがおできになり、このお方が仰せになったことをことごとくなす力は無限であると、わたしが完全に信じないかぎり何の価値もない。

主がわたしに賜ったメッセージは、信仰のメッセージである。わたしたちはこのお方のみ言葉を信頼しないこと以上にこのお方を辱めることができない。感情はまったく信頼に値しない。気分によって養われ、保たれている宗教は価値がない。神のみ言葉に、わたしたちは安全に自分たちの希望をおくことができる。そして、わたしたちが持っている確信のうちに、わたしたちは神のみ言葉に確立され、強められ、定着し、とこしえの岩にしっかり固定されるのである。そのときパウロの祈りは答えられる。

「そういうわけで、これらの事を耳にして以来、わたしたちも絶えずあなたがたのために祈り求めているのは、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力とをもって、神の御旨を深く知り、主のみこころにかなった生活をして真に主を喜ばせ、あらゆる良いわざを行って実を結び、神を知る知識をいよいよ増し加えるに至ることである」(コロサイ1:9,10)。(原稿80,1893年5月27日、日記)

# 内に宿られるキリスト

「『光の中にいる』と言いながら、その兄弟を憎む者は、今なお、やみの中にいるのである。兄弟を愛する者は、光におるのであって、つまずくことはない。」(ヨハネ第-2:9,10)

昨晩、わたしは小さい群れが共に宗教的集会に集まっている夢を見た。そこに一人の人が入ってきて、その人は暗い隅に座り、そこでは彼は人目につかないのであった。そこには自由の霊がなかった。主の御霊は抑制されていた。教会の長老から何か発言がなされた。彼はだれかを傷つけようとしているかのようであった。わたしはその見知らぬ人の表情に悲しみがあるのを見た。真理を信じると主張している人々の心にイエスの愛がないことが明らかになり、そしてその当然な結果、キリストの精神が欠如しており、思想にも感情にも神に対する、また互いに対する愛が大いに欠乏していた。その一堂に会した集会はだれをも活気づけることはなかった。

集会がまさに閉じられようとしていたとき、見知らぬ人が立ち上がって、悲しみと涙に満ちた声で、彼ら自身の魂のうちに、また彼ら自身の経験のうちに、キリストの愛が大いに欠乏していると述べた。キリストの愛はキリストが宿ってくださるすべての心に大いに存在するのである。神の御霊によって新たにされるすべての心は神を愛するばかりでなく、自分の兄弟も愛する。そしてもし兄弟が間違いを犯したなら、もし彼が過ちを犯したのであれば、彼は福音の方法に従って扱われなければならない。すべての歩みは神のみ言葉に与えられている指示どおりに従っていかなければならない。「兄弟たちよ。もしもある人が罪過に陥っていることがわかったなら、霊の人であるあなたがたは、柔和な心をもって、その人を正しなさい。それと同時に、もしか自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと、反省しなさい」(ガラテヤ 6:1)。彼は言った、「あなたがたはイエスがゲッセマネでの長い苦悩の闘いのためにご自分の弟子たちを残していかれる直前に、ご自分が裏切られ、裁判にかけられ、十字架にかかられる前に祈られたこのお方の祈りを覚えていないのですか」(ヨハネ 17:15-23 参照)。

あなたはキリストの血で買われた者たちをどのように扱うかに注意しなさい。 悪い行いには率直で忠実な譴責の必要がある。しかしこの働きを引き受ける者 は、自分自身が悪い行いによってキリストから離れてないことを確かめなさい。 彼は霊的であって、そのような者を柔和の精神のうちに回復しなければならない。

キリストの精神と品性が神に選ばれた者たちのうちに、彼らの天来の会話によって、彼らの柔和によって、また彼らの責められるところのないふるまいによって表れる。神の御霊に導かれる者はだれでも、神の子なのである。(原稿 32, 1887 年 5 月 28 日、日記、「ドイツへの訪問」)

# 働きに対する崇敬

「きよい良心をもって、信仰の奥義を保っていなければならない」(テモテ第一 3:9)

わたしは今朝、わたしが享受した平安のために主を讃美した。主にあってわたしには完全な休息がある。わたしはこのお方の愛に信頼する。わたしたちはなぜ、神の愛、このお方のみ言葉の保証に安んじないのであろうか。イエスは何と仰せになったであろうか。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」。この約束以上に積極的なものがあろうか。「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」(マタイ 11:28-30)。だから、来なさい。イエス・キリストを信じるわたしたちは一刻も延ばさずに、行こうではないか。

あたかも主イエスが結局は本気で仰せになったのではないと恐れているかのように、自分自身を固くつかんでいる者はすべて、神に対してひどい侮辱を表しているのである。イエスから離れていることによって、わたしたちの行動は、「わたしは主イエスが本気でそのおつもりなのだとは信じない」と言っているのではないだろうか。あなたは自分の人間の友人たちをこのような疑った信頼しない方法で扱いはしない。もし彼らがあなたに敬意を払っているのであれば、彼らがあなたに約束するとき、あなたは「わたしには信仰がありません。わたしはあなたの約束を何も信じることができません。これはわたしにとって大変な苦しみですが、いずれにせよ、わたしはあなたの言葉を信じることはできません」とは言わない。

あなたは事実上、あなたの行動において、神にこうしたことを全部述べているのである。……あなたが来たときにはいつでも休息を見出してきた。しかし、あなたは自分自身を見て、自分自身を嘆いて、疑問に思い始めている。今これらを全部やめなさい。あなたが製作した恐ろしいすり傷を作るくびきをあなたの首から取り去り、キリストのくびきを負いなさい。それは負いやすいと言われており、その荷は軽いとこのお方はあなたに仰せになっている。

聖霊は慰め主、あなたの慰め主であられる。聖霊はご自分の働きの分を果たされるのに失敗されたことがあるであろうか。もしそうであれば、あなたには責任はない。しかし約束は確かであり、動くことはない。あなたが神を信じる信仰がないと言うとき、あなたは神を偽り者としているのであり、わたしたちの弱さを助けようといつでも備えられている聖霊の働きにあなたが信頼していないことを示しているのである。このお方は常にあなたの戸のところで待ち、いつも入れてもらいたいと戸をたたいておられる。このお方をお迎えしなさい。あなたがしなければならないことは、ただあなたの意志を主の側に置くことだけである。あなたは約束を必要としている。しかし、その約束の背後におられるのは無限のお方であり、あなたはこのお方に完全な信頼を持たなくてはならない。「わたしは主のものである。わたしは信じる」と言いなさい。魂からすべての疑いを締め出しなさい。神を信じる信仰を持ちなさい。このお方はあなたを愛しておられる。決して、決してこのお方を疑ったり、信頼させなかったりすることを自分に許してはならない。(原稿80,1893年5月29日、日記)

# しみなく

「キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられた……キリストがそうなさったのは、……しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。」(エペソ 5:25-27)

わたしたちはクリスチャンという名を帯びている。この名前に対して忠実であろう。クリスチャンであるという意味は、キリストに似ているということである。それは、キリストの愛の旗を高く掲げ、無我の言葉と行いによってこのお方に誉れを帰しつつ、自己犠牲においてこのお方に従うことを意味している。真のクリスチャンの生活には、自己というものが何もない。自己は死んでいるのである。キリストがこの地上におられたときに送られた生涯には利己心がなかった。わたしたちの性質を負われながら、このお方は他の人々の益のために余すことなく献身した生涯を送られた。……

キリストに従う人々は、言葉と行いにおいて純潔で真実でなければならない。この世、すなわち悪と堕落の世で、クリスチャンはキリストの特性をあらわさなければならない。彼らがすることも言うこともみな、利己心のないものであるべきである。キリストはみ父に、ご自分の恵みを通して精錬され、ご自分の姿を帯びだしみもしわも、そのたぐいのものが一切ない」彼らを捧げたいと願っておられる。

このお方の大いなる愛のうちに、キリストはご自身をわたしたちのために明け渡して下さった。このお方は、奮闘し、苦闘している魂の必要に応じるため、わたしたちのためにご自分を与えて下さった。わたしたちはこのお方に自分自身を明け渡さなければならない。もしわたしたちが余すことなく明け渡すのであれば、キリストはご自分を明け渡されることによってわたしたちのために始められた働きを完成することがおできになる。そのとき、このお方はわたしたちに完全な回復をもたらすことがおできになるのである。

キリストは人類の贖いのためにご自分を与えて下さった。それはご自分を信じる人々がみな永遠の命を得ることができるためである。この偉大な犠牲を感謝する人々は、救い主より、すべての賜物の中でもっとも尊いもの、すなわち清い心を受ける。彼らは金銀宝石よりも価値のある経験を得るようになる。彼らはキリストのうちに、天国に共に座し、このお方との交わりのうちに、このお方しか与えることのできない喜びと平安を享受するのである。彼らは心と思いと魂と力をもってこのお方を愛し、自分たちがこのお方の血によって買われた嗣業であることを悟る。彼らの霊的な視力は世の政策や世の目的によって曇らされてはいない。彼らは、キリストがみ父と一つであられるように、このお方と一つなのである。

あなたは、キリストが余すことなくご自分のために生きている人々を高く評価すると思わないであろうか。あなたは、このお方が、愛されたヨハネのようにご自分のために困難や試練の場所にいる人々を訪問なさるとは思わないであろうか。このお方はご自分の忠実な者たちを見出し、そして彼らと交わり、彼らを励まし、強められる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1907 年 5 月 30 日)

# わたしたちの保護天使

「あなたは主を避け所とし、いと高き者をすまいとしたので、災はあなたに臨まず、 悩みはあなたの天幕に近づくことはない。これは主があなたのために天使たちに命じ て、あなたの歩むすべての道であなたを守らせられるからである。」(詩篇 91:9-11)

み使いたちはすべての家族の中にいて見守るようにとの任命を受けている。各自は聖天使たちの保護を受けている。これらのみ使いたちは目に見えないが、それでもときどき彼らは自分たちの光をはっきりと輝かせるので、それを認めることができる。わたしは、あなたが受けたものもその表れだと信じている。この表れは、主があなたを愛しておられること、そしてこのお方のみ使いたちがあなたを守っていることを教えている。あなたは神の力によって守られているのである。

このようなことが多く起こるようになる。この光の表れは、あなたが言ったように、善を行うようにあなたを励ますべきものである。あなたは神の光を垣間見たのであるから、それによってあなたの心に大きな励ましを覚え、感謝しなさい。わたしたちは天使たちが毎瞬毎瞬見守っているという事実に対していつも感謝しているべきである。もしあなたが見た光を、見たならば、非常に多くの人々が喜び、感謝することであろう。

あなたが正しくあろうとし、また正しいことを行おうとして、聖書を探求するとき、あなたの歩みに同伴している御使たちは喜ぶ。天の御使たちは真理の証拠に反応し、それに従おうとする人々にはっきりとわかる方法で訪れる。そしてもしこれらの御使たちをいつも見ることはできないとしても、彼らがやはりそこにいるのだということをあなたは覚えていなければならない。ただ、あなたの肉眼が光を識別するほど強められていないだけである。……

わたしたちにとって大きな問題とは、わたしたちがよいことを行ないたい一つ一つの願いにおいて、天の存在者たちがわたしたちを助けようとして近くにいることを考える時間を持とうとしないことである。主があなたを愛し、あなたを心にかけて下さっているという証拠はあなたに与えられてきた。あなたは勇気をもって、あなたがなし得るすべての善を行なうための力と恵みを受けると感じることができる。……

主に感謝せよ、あなたは天の使命者たちからの光線をいくぶんか見る特権にあずかり、あなたの心は活気づけられた。あなたは自分の母親や他の家族のメンバーを助けるためにどれほど多くのことができるかを悟ることができる。クリスチャンとは、生活の小さな義務を取り上げ、他の人々の重荷を負いつつ、毎日キリストから学ぶ人のことである。こうしてあなたはキリストと一つになるのである。(手紙 82, 1900 年 5 月 31 日、オーストラリアの若い教会員エルシー・アトキンズへ)

### 研究 5

### 清めの特別な働き



# 大贖罪の日における大祭司 の立場と働き

(聖所の清めと民の清めレビ 16 章と 23 章)

立場が理解されると、次に働きが続きます:

贖罪の日に、大祭司は恵みの御座(贖罪所)の前に(レビ記 16:12-15)、自分の民のために(ゼカリヤ3章)立ちます。この贖罪所は、正義の標準である十誠の入っている契約の箱の上にありました。

罪は律法の違反(不法:ョハネ第一3:4)であり、人は律法により違反者として有罪宣告を受けています(ヤコブ2:9-12)。罪とは、律法(善)を無視すること、あるいは軽視することです。そして、罪の支払う報酬は死です(ローマ6:23)。死とは違反者の命を取ることであり、その命は血の中にあります(レビ記17:11)。これが、律法が犯される時にいつでも、犠牲の血が流された理由です(ヘブル9:22)。これが贖罪です。

罪人が律法の要求に応じる、つまり満たすためには、罪のない犠牲の血が必要です。そのために、旧約において犠牲の捧げ物は、傷のないものでした(出エジプト記12:5)。新約において、犠牲の小羊イエスは、何の罪もないお方でした(ヨハネ第一3:5)。

罪人を死ぬことから救い、正義の要求を満たすためには、庭で血が流され、その血が庭の真ん中にある祭壇の下に注がれました(レビ記 4:7, 18, 25, 30)。そしてその上で犠牲が焼かれました。これはイエス・キリストの十字架を予表していました。十字架はわたしたちの主の地上における働きの中心です。そしてこの十字架だけが、不法(律法の違反)に対する、かつ不法のための神の答えなのです。

地上の働きが完成した後、昇天し、天の聖所の中に入られました (ヘブル

9:11,12)。このお方の地上の働きの中心は十字架でした。そしてこのお方の天での働きの中心は契約の箱、すなわち律法の入った箱の前での大祭司としての働きです。

贖罪の日は、十字架で実証された律法の正義(義)と神の愛(憐れみ)が会い、永遠に確定する日です(レビ記 16:15,16)。これこそ、福音の要約なのです(ローマ 3:23-26, 詩篇 85:10、11)。

これがわたしたちの大祭司であられるキリストの働きの理解です。では、このキリストに従う神の民の働きは何でしょうか。

### 神の民の間の清め

「特にその七月の十日は贖罪の日である。あなたがたは**聖会**を開き**身を悩まし**、主に火祭をささげなければならない」(レビ記 23:27)。

「わたしたちは贖罪の日にいる。そして、わたしたちは民の罪から聖所を**清めておられるキリストの働きに調和して働かなければならない**。礼服を着ていることを見いだされることを望んでいる人はだれも自分の仕事において主を拒むことがないようにしよう。**このお方があられる通りに、このお方に従う人々もこの世においてそうなるのである**。わたしたちは今、自分たちが信仰によって偉大な大祭司が天の聖所で成し遂げておられる働きを民の前に置かなければならない。天の宮におけるイエスの働きにおいて、このお方に共鳴しない人々、すなわち魂の宮をすべての汚れから清めない人々、かえって<u>この働きに調和しない何らかの事業に携わる人々は、人々の思いをこの時代のための真理と働きからそらすことによって、神と人の敵の側に加担しているのである」(レビュー・アンド・ヘラルド 1890 年 1 月 21 日)。</u>

「天の聖所におけるキリストのとりなしがやむとき地上に住んでいる人々は、聖なる神の前で、仲保者なしに立たなければならない。彼らの着物は汚れがなく、彼らの品性は、血をそそがれて罪から清まっていなければならない。キリストの恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければならない。天で調査審判が行なわれ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行なわれなければならない」(各時代の大争闘下巻 140, 141)。

このお方の働きに調和する人、すなわち、このお方が天の聖所で神の民の罪の除去のために働いておられるとき、このお方に従う人々は、このお方と調和して、自分たちの罪の除去のために働き、地上においてこのお方と同じようになります。

そして、具体的には、1) 聖会を開き、2) 身を悩まし、3) 火祭を捧げるのです。

### わたしは二つの群れを見た….

「わたしは御座の前に、再臨信徒たちを、すなわち教会と世俗とを見た。わたしは二つの群れを見た。一つは、深い関心をもって、御座の前に<u>頭を下げていた</u>。もう一つの群れは、無関心で不注意な態度で立っていた。御座の前で頭をたれていた人々は、祈りをささげて、イエスを仰いだ。するとイエスは、父なる神を仰ぎ見て、神に訴えておられるようすであった。光が、父なる神から御子に輝き、そして御子から、祈っている群れへと輝いた。その時、わたしは、特別に明るい光が、父なる神から御子に輝き、御子から御座の前にいる人々へと及んでいくのを見た。しかし、この大きな光を受けいれるものは、ほとんどなかった。多くの人は、その下から出て来て、直ちにそれに反抗した。他の人々は関心を示さず、その光を大事にしなかった。そのため、光は彼らから去っていった。ある人々は、それを心に大事にしまい、それから祈っている小さな群れのところへ行って、彼らとともに頭を下げた。この群れはみな、光を受けて喜び、彼らの顔は栄光に輝いた」(初代文集124,125)。

預言者が見たのは、キリストの再臨を待っていると公言する人々でしたが、その中に二種類の人々一身を悩ましている者と不注意な者一がいました。大祭司であられるイエスは、深い関心をもって御座の前で頭を下げていた人々のために御父に訴え、光は彼らのために輝き出たのです。

それでは、彼らはどのようにイエスに従っていったのでしょうか。

「わたしは、父なる神が**御座から立たれて** (補遺参照)、**炎の車に乗って幕の** なかの至聖所にはいられ、お座りになるのを見た。それから、イエスが御座か ら立ち上がられた。そして、頭をたれていた人々の大部分が、彼とともに立ち上 がった。わたしは、イエスが立ち上がられた後で、無関心な群集には、イエスか ら一条の光も輝かなかったのを見た。そして、彼らは全くの暗黒の中に取り残さ れた。イエスが立たれたときに立った人々は、彼が御座を立って、彼らを少しば かり導き始められるのをじっと見つめていた。するとイエスは、彼の右の手を上 げられた。そして、われわれは、彼がうるわしい声で、「ここで待っていなさい。 わたしは、わたしの父のところへ行って御国を受けてくる。あなたがたの衣を汚 さないようにしていなさい。しばらくすれば、わたしは婚宴に帰って来て、あなた がたを、わたしのところに迎えよう」と言われるのを聞いた。そのとき火の炎のよ うな輪がついた雲の車が、天使たちにかこまれて、イエスがおられるところに来た。 彼は、その車に乗って、父なる神が座っておられる至聖所にはいっていかれた。 そこでわたしは、父なる神の前に立っておられる大祭司イエスを見た。彼の衣の 縁には、鈴とざくろとがあった。イエスとともに立った人々は、至聖所のイエスを 信仰をもって仰いで、『わが父よ、あなたの霊を与えてください』と祈るのであった。 すると、イエスは、彼らに聖霊を注がれた。その息吹のなかに、光と力、そして

多くの愛と喜びと平和があった」(初代文集 125)。

(補遺)「わたしは、父なる神がみ座から立たれるのを見た、と……書いた。 父なる神は、光と栄光のうちに包まれておられ、そのお姿を見ることはできなかった。しかし、わたしは、それが、父なる神であることと、彼のお体から、この光と栄光とが出ていることとを知った。わたしが、この光と栄光のかたまりが、み座から立ち上がられるのを見たときに、わたしは、それは父なる神が動かれたためであるとわかったので、わたしは、父なる神が立たれるのを見たと言ったのである。わたしは、父なる神の栄光あるいは、その麗わしさを見ることはできなかった。それを見て生きていることができるものはいないのである。しかし、父なる神のお姿を包んでいた光と栄光のかたまりは、見ることができた」(初代文集 182.183)。

これは、御父が御座から立たれて、至聖所の中に入られた時、すなわち、ダニエル書 7 章にある審判の時のことであることがわかります。

「わたしが見ていると、もろもろのみ座が設けられて、日の老いたる者が座しておられた。その衣は雪のように白く、頭の毛は混じりもののない羊の毛のようであった。そのみ座は火の炎であり、その車輪は燃える火であった。彼の前から、ひと筋の火の流れが出てきた。彼に仕える者は千々、彼の前にはべる者は万々、審判を行う者はその席に着き、かずかずの書き物が開かれた。」「わたしはまた夜の幻のうちに見ていると、見よ、人の子のような者が、天の雲に乗ってきて、日の老いたる者のもとに来ると、その前に導かれた」(9節、10節、13節)。

「日の老いたる者」、すなわち御父が至聖所に入られ審判の座につかれたのち、「人の子」イエスも御座から立ち上がられました。そしてそのとき、頭を垂れていた人々は、イエスと共に立ち上がったとあります。つまり、彼らはその時まで、イエスと共に座していたのです。いつ、彼らはイエスと共に座したのでしょうか。

「主はわが主に言われる、『わたしがあなたのもろもろの敵をあなたの足台とするまで、わたしの右に座せよ』と。」「『あなたはメルキゼデクの位にしたがってとこしえに祭司である』」(詩篇 110:1, 4)。

「キリストは天の門の中に入って行かれて、天使たちのさんびのうちに王座につかれた。この儀式が終わるとすぐ、聖霊は豊かな流れとなって弟子たちの上にくだり、キリストは永遠の昔から父と共に持っておられた栄光をお受けになった。ペンテコステの聖霊降下は、あがない主の就任式が完了したことを知らせる天からの通報であった。主は、その約束に従って、ご自分が祭司、また王として、天と地のすべての権威を引き継ぎ、神の民の上に立つ油そそがれた者となられたしるしとして、弟子たちに天から聖霊を送られたのであった」(患難から栄光へ上巻34)。

地上での働きを終えられ、よみがえられた後、このお方は約束通り、御父の許へ昇天されました。そして、御父が「あなたは……とこしえに祭司である」「わたしの右に座せよ」と言われた通り、このお方は祭司として座につかれました。体は地上にいましたが、人々でさえも、「イエスと共にいた者であることを認めた」弟子たちは、どうだったでしょうか。

「キリストが彼らの思想となり、キリストの国の前進が彼らの目標であった。彼らは心も品性も主に似たものとなっていた。そして人々は『彼らがイエスと共にいた者であることを認め』た(使徒行伝 4:13)。……

弟子たちはイエスのみ名を、確信をもって語ることができた。それは、イエスが彼らの友であり、兄であられたからではなかっただろうか。キリストとの親しい交わりに導かれて、彼らは主と共に天に備えられた場所に座った」(患難から栄光へ上巻 41)。

そうです、彼らは信仰によって、祭司として御座につかれたイエスと共に「座った」 のでした。そして、一心にイエスを見ていた弟子たちは、至聖所に入るために立 ち上がられたイエスと共に立ち上がりました。

しかし、少しばかり導き始められたとき、このお方は右の手をあげて彼らに「待ちなさい」と言われます。「わたしは、わたしの父のところへ行って御国を受けてくる。あなたがたの衣を汚さないようにしていなさい」。

「わたしはまた夜の幻のうちに見ていると、見よ、人の子のような者が、天の雲に乗ってきて、日の老いたる者のもとに来ると、その前に導かれた。 彼に主権と光栄と国とを賜い、諸民、諸族、諸国語の者を彼に仕えさせた。その主権は永遠の主権であって、なくなることがなく、その国は滅びることがない」(ダニエル7:13, 14)。

このイエスを見ている者は、だれでしょうか。何をしているでしょうか。

「イエスとともに立った人々は、至聖所のイエスを信仰をもって仰いで、『わが父よ、あなたの霊を与えてください』と祈るのであった。すると、イエスは、彼らに聖霊を注がれた。その息吹のなかに、光と力、そして多くの愛と喜びと平和があった」。

わたしたちは、今、このように自分たちの大祭司であられるイエスを目の前に 見ているでしょうか。このお方から目を離さず、見つめているでしょうか。

「見よ、しもべがその主人の手に目をそそぎ、はしためがその主婦の手に目をそそぐように、われらはわれらの神、主に目をそそいで、われらをあわれまれるのを待ちます」(詩篇 123:2)。

「天使たちは、われわれを守り保護している。われわれは、たびたび**つまらぬ** 会話をしたり、むだ話しや冗談を言ったり、また、不注意で愚かな状態に陥ったりして、天使たちを悲しませることがある。時には、勝利を得ようと努力して、勝利することもあるが、もしもわれわれがそれを持続させずに、同じような不注意で無関心な状態に陥って、誘惑に耐えられず、敵に抵抗することができないならば、われわれは、黄金よりも尊い信仰の試練に耐えることができない。われわれは、キリストのために苦しんでおらず、患難をも喜んでいないのである」(初代文集 211)。

「われわれを正しい状態にするために、われわれのためにどれだけのことがなされたかを、わたしが自覚するときに、わたしは、ああ、神のみ子は、われわれ哀れな罪人のために何という愛、何と驚くべき愛をもたれたのだろうかと叫ばざるを得ない。われわれの救いのために、できる限りのことがなされているときに、われわれは、何も感じず、無関心であってよいだろうか。全天は、われわれに関心を持っている。……」(初代文集 213)。

「祈っている人々が、彼らの熱心な叫びをつづけていると、時々、イエスからの光が彼らに輝……いた。ある人々は、この**苦闘と祈り**に加わらないのをわたしは見た。彼らは、**不注意で無関心**なように見えた。彼らは、回りの暗黒に抵抗しようとしなかったので、暗黒が厚い雲のように彼らを囲んだ。神の天使たちは、この人々を去って、熱心に祈っている人々を助けに行った。悪天使たちに抵抗するために全力をあげて闘い、忍耐強く神を呼び求めて努力しているすべての者を助けるために、神の天使たちが急いでいくのをわたしは見た。しかし、神の天使たちは、自らを助けようと努力しない人々を去った。そして、わたしは彼らを見失ってしまった。……」(初代文集 438)。

「この一団の数は減少していた。ある者は、ふるい落とされて、途中に残された。勝利と救いを尊んでそのために忍耐強く嘆願し苦悩した人々に加わらなかった不注意で無関心な人々は、それにあずからず、暗黒のうちに取りのこされた。そして、彼らの場所は、真理を信じて隊列に加わる人々によって、直ちに補充された。悪天使たちは、なお彼らの回りにつめ寄ったが、彼らに打ち勝つ力はなかった」(初代文集439)。

イエスを一心に見つめていた弟子たちの上に、天から御霊が注がれたように、全天は同じ関心をもって、今もなお、弟子たちのために働いています。大祭司イエスは、御父の前に日々刻々ととりなしてくださっているのです。わたしたちはどうでしょうか。

#### (50 ページの続き)

聖霊はわたしたちの心の中に神さまの愛をもたらします。これはわたしたちの切望を満たし、こうして富や栄誉そしてこの世の楽しみはわたしたちを引き付けなくなります。そして、自分たちを満たしたこのような喜びを他の人々にも持たせてあげたいと望むようになります。それはわたしたちのうちで水の泉のようになり、周囲のすべてに祝福となって流れるのです。

そして神さまの御霊が宿っているすべての人は、キリストと共にこのお方の御国(みくに)で永遠に生きるようになります。信仰によって心に受け入れられるとき、それは永遠の命の始まりです。

この尊い祝福を、キリストは女の人に、もしそれを求めるならばご自分がお与えになると言われたのでした。同様に、このお方はそれをわたしたちにも与えてくださいます。

この女の人は神さまの戒めを破っていました。そしてキリストは彼女に、ご自分が彼女の人生の罪をごぞんじであることを示されました。しかしキリストはまた、ご自分が彼女の友であられること、ご自分が彼女を愛し、あわれんでおられること、そしてもし彼女が喜んで自分の罪を捨てるならば、神さまは彼女をご自分の子として受け入れてくださることを示されました。

彼女がこれを知ったときどれほど喜んだでしょう! 喜んで、彼女は近くの町 に急いで行き、そして人々に行ってイエスさまに会うように呼びかけました。

そこで彼らは井戸のところに来て、そしてイエスさまに自分たちと共にと どまってくださるように頼みました。このお方は2日間とどまられ、そして 彼らを教え、多くの人々はそのみことばを聞きました。彼らは自分たちの罪 を悔い改め、そして自分たちの救い主としてこのお方を信じました。

# 海苔パスタ

### ■材料(2人分)

スパゲティ 200g

焼のり 大判2枚

醤油 大さじ2

だしの素 小さじ1/2

水 200cc

水菜 40g

### ■作り方

- 1. スパゲティはたっぷりの湯を沸かし、適量の塩を入れて茹でる。
- 2. 海苔は細かくちぎる。水菜は、ざくぎりにする。
- 3. フライパンに海苔、醤油、だしを入れて火にかけ、軽く混ぜながら海苔が溶けて水気がなくなるまで煮詰める
- 4. スパゲティの湯を切り、②のフライパンに入れて全体にからめる。
- 5. 器に盛り、上に水菜を添える。

和風スパゲティです。

### 教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校:9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教:11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究:14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp



### 聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

### □聖所真理

お申込先:〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱13号「福音の宝」係 是非お申し込み下さい。

### 書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよ みもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全 に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



### イエスの物語

# 第16話 初期の働き(II)

婚宴に行かれたことによって、キリストはこのような快い方法で共に集まるのは正しいことであることをお示しになりました。このお方は人々が幸せであるのをごらんになるのがお好きでした。イエスさまはしばしば家にいる人々を訪ね、そして彼らに自分の気がかりや悩みを忘れて、神さまのいつくしみ深さとこのお方の愛を考えさせようとなさいました。どこにいても、イエスさまはそうしようと努めておられました。神さまのメッセージを受け入れるために心が開かれていた場所であればどこででも、救いの道の真理を明らかになさいました。

ある日、このお方がサマリヤの国を通過しようとしておられたとき、休むために井戸のかたわらに座られました。ひとりの女の人が水をくむために来たとき、イエスさまは彼女に水を飲ませてほしいと頼まれました。

女の人はこれを疑問に思いました。彼女はユダヤ人がどのぐらいサマリヤ人を嫌っているかを知っていたからです。しかし、キリストはもし彼女がご自分に求めるならば、ご自分が彼女に生ける水を与えるであろうと語られました。これで彼女はますます不思議に思いました。そこでイエスさまは彼女に言われました。

「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう。しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」(ヨハネ 4:13, 14)。生ける水は聖霊(せいれい)を意味していま



(47 ページに続く)